

〈主要な問題の解説〉

緑化木の生産振興

1 愛知県植木センター

緑化木生産振興施設として 1986 年度に設置された同センターは、指定管理者制度を活用し、(公財) 愛知県林業振興基金が管理運営する公の施設です。

敷地内には 550 種約 24,000 本の樹木を管理・展示しており、今後も緑化木の生産及び造園技術に関する研修や調査研究を通して、緑化木生産者の支援に努めていきます。



愛知県植木センター

2 緑化樹木共進会の開催

緑化木の生産技術の向上と需要拡大を図るため、昭和 48 年度から毎年開催しています。

県内の緑化木生産者を対象として、仕立物の部、自然形の部、生垣用樹の部、玉物・株物の部、コンテナの部、育苗ほ場の部の 6 部門において作品を募集しています。2019 年度の第 47 回共進会は 113 点の応募があり、その中から 17 点の優秀作品を表彰しています。また、入賞作品の写真を愛知県植木センター等で展示し、愛知県産の緑化木の普及に努めています。

近年、一戸建て住宅の新築の減少や洋風の庭が好まれ、また公共事業での緑化が減る中で、緑化木の需要・生産の減少や生産者の減少が続いています。ニーズの多様化への対応や魅力ある緑化木を生産するために、切磋琢磨できる共進会となるよう広く参加を呼びかけると共に、更なる愛知県産緑化木の普及に努める必要があります。



第 47 回愛知県緑化樹木共進会
農林水産大臣賞
ベニバナトキワマンサク

3 愛知県緑化センター

緑化に関する知識を普及し、緑化の推進に寄与するために設置された同センターは、指定管理者((公財) 愛知公園協会 (一社) 愛知県緑化センター協力会共同体)が管理運営する公の施設です。

県政 100 年を記念して 1976 年 5 月、豊田市(旧藤岡町)に設置された同センターは、春・秋の「みどりフェスティバル」を始めとするイベントの充実や、日本庭園の紅葉時期のライトアップ等により利用促進を図っており、2018 年度の年間利用者数は約 66 万人となりました。

敷地内には様々な庭園や見本林を設けており、年間を通して、緑化木を身近に感じることができます。さらに、緑化木の使い方や手入れ方法について、一般県民向けの研修を開催しており、今後も県民の皆様が緑化木に親しんでいただけるよう努めていきます。



愛知県緑化センター
(上: 日本庭園、下: 芝生園)

県有林とレクリエーション施設

● 林業経営の現況（A表）

県有林野特別会計では、民有林の模範となる木材生産を目的とする模範造林地（1,475ha）及び営林事業地（479ha）において、造林、保育、木材生産事業等を計画的に実施しています。

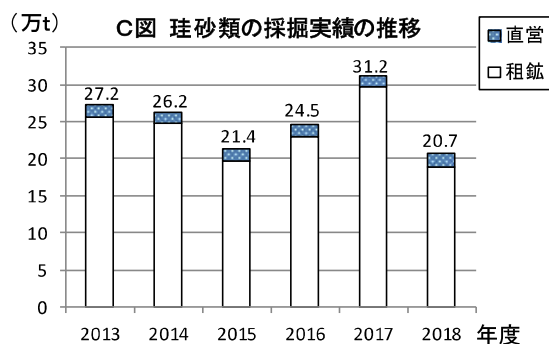
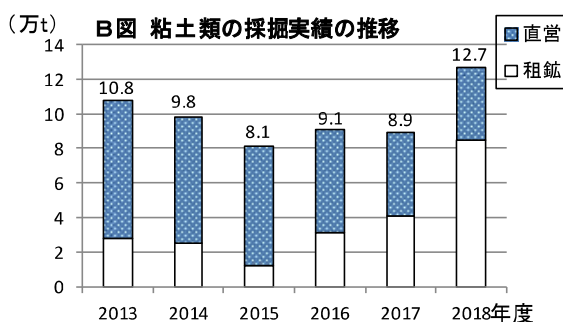
A表 林業経営の実績の推移 (単位:面積:ha、材積:m³)

区 分	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
造林(補植) 面積	2.00	3.58	1.29	2.09	2.09
保 育 面積	42.17	16.54	24.08	27.79	31.6
素材生産 材積	2,023	1,508	1,743	1,240	1,532
立木販売 材積	0	206	334	459	0

● 鉱山経営では、総採掘量が減少（B・C図）

瀬戸市内の県有林野地には、陶磁器等の原料となる耐火粘土・珪砂が埋蔵されており、鉱業法に基づき、直営採掘を行うとともに、租鉱権設定による採掘管理を行い、鉱物の安定供給を図っています。

2018年度の総採掘実績量は、前年度に比べ、6万6千t減の33万4千tで、内訳は粘土類3万8千t増の12万7千t、珪砂類10万5千t減の20万7千tで、特に租鉱の珪砂類において大幅な減少となりました。



● 森林公園利用者数は、前年度より減少（D図）

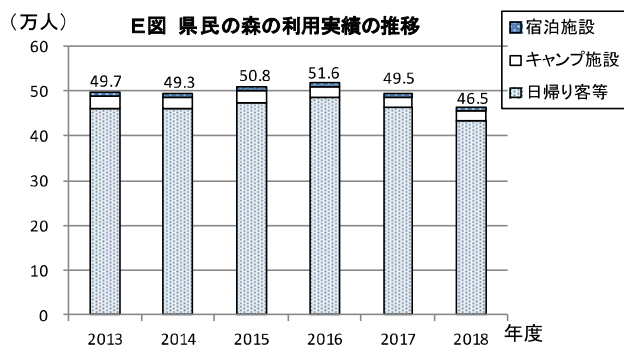
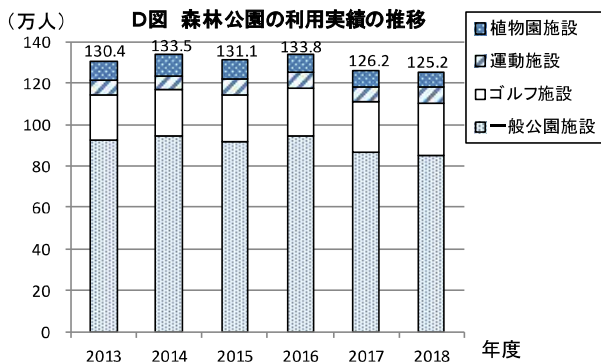
1934年度に開園した森林公園は、自然を生かした県民の総合レクリエーションの場として多くの利用者に親しまれており、2016年度からウッドフレンズ共同企業体を指定管理者とし、管理・運営を行っています。森林公園ゴルフ場については、センターハウスの新築、グリーンのパント化工事等の施設整備がPFI事業により2006年度末までに完了し、2007年度から森林公園ゴルフ場運営株が管理・運営を行っています。

ゴルフ場も含めた森林公園全体における2018年度の利用者数は、前年度に比べ、1万人減の125万2千人でした。

● 県民の森利用者数は、前年度より減少（E図）

県民の森は、明治百年を記念して、1970年7月にオープンしたもので、県民の保健休養の場として活用されています。2016年度からは（公財）愛知公園協会を指定管理者とし、管理・運営を行っています。

2018年度の利用者数は、前年度に比べ、3万人減の46万5千人でした。



〈主要な問題の解説〉

「愛知県民の森」が50周年を迎えます

愛知県民の森（所在：新城市門谷字鳳来寺）は、明治百年を記念して1970年7月18日にオープンし、今年（2020年）で開設50周年を迎えます。この稿では愛知県民の森の過去50年を振り返ります。

1 開設の経緯

昭和30年代から40年代にかけて、我が国は高度経済成長期にあり、本県においても人口の都市集中や工業化が進みましたが、都市部の緑が急速に減少し、生活環境の悪化が進みました。都市生活からくるストレスの解消のため、自然への回帰と野外レクリエーションの場を森林に求める気運が全国的に高まり、これらのニーズに応えるため、本県では1968年から、愛知県民の森の整備が開始（第1期工事）され、1970年（昭和45年）7月にオープンしました。



ビジターロッジ

2 開設からこれまでの歩み

(昭和時代)

ビジターロッジ、キャンプ場、園内道路、駐車場といった基本的な施設を整備してオープンした愛知県民の森ですが、その後も水遊び場や多目的広場の整備、多目的研修棟の建設など、利用者の意見等を参考に施設の充実を進めてきました。

1979年（昭和54年）5月26日には、天皇皇后両陛下をお迎えして第30回全国植樹祭お手まき行事を挙行し、お手まきの種から芽を出したスギ・ヒノキは、今では立派に成長しています。

また、1986年（昭和61年）には、森林浴の森100選にも選ばれました。



お手まきのスギ・ヒノキ

(平成時代)

平成に入ってから、余暇時間の増加による利用者ニーズの多様化に対応するため、オートキャンプ場やバンガローの整備を行い、キャンプ施設の充実を進めるとともに、老朽化の進んだビジターロッジに代わる施設として、1996年（平成8年）5月に「モリトピア愛知」を竣工しました。

1994年（平成6年）には、第49回国民体育大会（わかしゃち国体）の山岳競技が県民の森の遊歩道を活用して開催された他、現在もトレイルランニングのコースとして利用されています。

また、1995年（平成7年）には水源の森100選にも選ばれており、自然観察やレクリエーションの森として多くの県民に親しまれています。



モリトピア愛知

3 令和に向けて

今後も余暇時間の増加に伴う利用者ニーズの多様化が進むとともに、生活様式の大変な変化も進むものと思われます。

これからも利用者、県民に良質かつ快適な環境を提供できるよう、愛知県民の森の施設整備とサービス向上に努めていきます。

7 技術の開発・普及

森林・林業試験研究及び緑化調査研究

● 森林・林業試験研究

森林・林業技術センターでは、2018年度に14課題の研究を実施しました。このうち、2018年度に完了した5課題の研究成果は次のとおりです。

課題名	主な成果	期間
強度間伐地における森林管理手法の開発	通常の間伐(30%)よりも強度の間伐(40%以上)を実施した森林について、その後の成長や森林被害の状況を調査した。その結果、強度間伐により森林内の光環境が改善され、下層植生の被覆率が時間の経過とともに上昇するとともに、2年目以降は立木の成長速度が無間伐地よりも向上した。また、森林被害について、風雪害やニホンジカによる剥皮害ともに発生の増加は認められなかったことから、強度間伐は効果的な森林管理手法の一つであることが明らかとなった。	2014 ～2018
低コスト造林地のモニタリング	人工林における低密度な植栽や下刈りの省略による低コスト化の有効性について調査した。1ha当たりの植栽密度が1,500本、2,000本、3,000本の調査地において植栽16年後の成長を調査した結果、樹高は植栽密度や下刈りの有無による差はなく、胸高直径は植栽密度が低いほど大きかった。	2016 ～2018
ニホンジカ等による森林被害の防除手法の開発	ニホンジカの生息および被害の状況を調査したところ、県内の分布域は、依然として拡大していることが確認された。森林被害は、県内の中山間地のほぼ全域で発生しており、剥皮行動は5～9月に確認された。県内のシカ生息数は2017年度で22,000頭余りと推定され、捕獲圧をさらに高める必要があると考えられた。 シカの防除対策として、シカの生息と被害の情報収集システム「シカ情報マップ」、シカ対策支援アプリ「やるシカない!」、わな通報システムを外部機関と共同開発した。	2016 ～2018
地域産タケ材の品質評価と供給・流通ルートの開発	竹林の効率的な駆除方法として、腰の高さ(約1m)で伐採する腰高伐採法に着目して調査をした結果、腰高伐採法は、従来の地際で伐採する方法に比べ、少なくとも皆伐後3年間、再生タケの本数密度、総材積ともに小さく、伐採駆除の省力化につながると考えられた。また、タケ材の品質評価手法として、立竹の応力波伝播速度を測定することにより、効率的に硬い材質のタケ材を選別することが可能となった。タケ材の利用については、供給コストを調査した結果、24～55円/kgであった。	2016 ～2018
多様な栽培条件に適したエリンギ品種の開発	当センターで品種登録しているエリンギ品種「とっとき1号」「とっとき2号」よりも、栽培時に病気になるにくく、収量の多い新品種を開発を目指し、異なる温度条件(9℃、12℃、15℃、18℃)で栽培試験を実施した。その結果、新たに作出した菌株の中から、従来株に比べて病気になるにくく、収量や発生日数、硬さなどの面で優れた1品種を開発することができた。	2016 ～2018

● 緑化調査研究

植木センターでは、3課題の調査研究を実施しました。このうち、2018年度に完了した1課題の結果は次のとおりです。

課題名	調査内容および成果	期間
剪定等により発生する枝葉の堆肥化に関する調査	剪定枝葉等を針葉樹、広葉樹、竹類に区分して堆肥化し、土壌改良剤としての特性を明らかにし、剪定枝等の有効活用について検証した。 チップ堆肥の施用効果について、①実生繁殖による発芽率や初期の生育状況(ハナミズキ、トベラ、ナンテン)、②挿し木繁殖による発根率(ツバキ、キンモクセイ、イヌマキ)、③定植後の生育状況(実生ハナミズキ)を調査した。 実生苗については、竹類を混合したものは生育が劣るが、針葉樹、広葉樹堆肥は良好であった。挿し木苗については、ツバキはよく発根したが、キンモクセイとイヌマキは低い発芽率となった。定植後の生育は、堆肥の種類による明確な差はなかった。 堆肥の使用は苗木の初期成長に相当の効果があることが分かった。竹類のチップは熟度を見極めて使用する必要があるが、針葉樹・広葉樹は同等の効果も期待できる。	2016 ～2018

〈主要な問題の解説〉

シカ捕獲管理支援システムの開発

～森林でのシカ対策の負担を軽減します～

森林・林業技術センター

1 本県のシカによる森林被害とその課題

本県では現在 22,000 頭を越えるニホンジカが生息していると推定されており、植栽地での苗の食害や立木の剥皮害が起こっています。被害対策として、植栽地で防護柵を施すとともに、農業分野等と連携し、年間約 4,000 頭を捕獲しています。シカの年間自然増加率は 1.2 と言われており、被害をこれ以上増やさないためにも、捕獲頭数を増やして生息頭数を減らしていくことが必要ですが、中山間地特有の作業負担の大きさが課題となっています。

2 シカ捕獲管理支援システムの開発と活用

捕獲作業の負担が大きい中山間地での負担軽減を目指し、総務省 SCOPE 事業を活用して、民間企業と共同で以下の技術開発に取り組みました。この開発したシステムを活用して、中山間地でも効率的にシカを捕獲し、被害の軽減につなげていきたいと考えています。

(1) 罠作動検知・通報システムの開発

シカの捕獲作業は、通常であれば捕獲従事者が設置した「くくり罠等」の設置場所を毎日巡回して捕獲の確認を行う必要がありますが、罠が作動した場合にスマホ等に通知されれば見回り作業の大幅な負担軽減になります。そこで、罠が作動した時に関係者へメール通知するシステムを開発しました（通知可能範囲は、見通しの良い場合で携帯が通じる場所から 4 km 先まで）

(2) 捕獲獣種の自動判別システムの開発

捕獲された獣種が予めわかると、獣種により異なる捕獲後の処理を効率的に行うことが可能になります。そこで、獣種を自動判別できる技術を検討し、シカ、カモシカ、イノシシの判定を 70% 以上の確率で判定できるシステムを開発しました。この獣種情報は罠作動と同時に関係者へメール通知されます。

(3) 「やるシカない！」の改良

出現予測マップ（250mメッシュ）等のシカの生息状況を表示する既存のシカ対策支援アプリ「やるシカない！」

<https://yarushikanai.jp> を改良し、罠の設置場所と捕獲状況を表示可能にしました。これにより関係者間で罠の状況を共有することが可能になりました。



シカ捕獲支援システムの概要

8 あいち森と緑づくり

あいち森と緑づくり税を活用した、森と緑を育み、守る取組

愛知県では2009年4月から県民の皆様や企業の方々にご負担をいただく「あいち森と緑づくり税」を導入し、この税を活用して、森林、里山林、都市の緑をバランスよく整備、保全するための様々な取組を進めています。

このうち農林基盤局では、人工林の整備、里山林の整備、普及啓発等を実施しています。

● 人工林の整備

林業活動では整備が困難な奥地や公道・河川沿い等の人工林について、公益的機能を十分に発揮する森林へ誘導するために、間伐を1,659ha実施しました。

● 里山林の整備

手入れがされていない里山林の再生にあわせて、防災機能向上のための簡易防災施設の設置等を行う里山林再生整備を県営で14箇所実施しました。

また、地域の特性やニーズに応じて地域住民やNPO等との協働による保全活用を前提とした計画に基づき市町村が行う提案型里山林整備を3箇所、手入れのされていない里山林の健全化のための整備を9箇所に対して助成しました。

● 普及啓発等

・森林整備技術者養成

森林整備を行う上で支障となり、事故の原因となる枯損木等の伐倒に必要な技術・技能を22名の技術者に習得させました。

・木の香る学校づくり推進

森林整備や愛知県産木材を利用する意義について普及啓発するため、公立小中学校への「あいち認証材」を使用した児童生徒用学習机・椅子3,743セット等に対して助成しました。

・愛知県産木材利活用推進

森林整備につながる間伐材の搬出促進や「あいち認証材」利用拡大のために公共施設へ木製ベンチを導入する取組14件に対して助成しました。

・森と緑づくり体感ツアー等

52名の県民の方々を対象に、愛知県の森と緑の現状を見て、体験し、考えていただくための森と緑づくり体感ツアーを実施しました。また、322名の県民の参加のもと、これまでの事業成果を知っていただき、森と緑づくりへの理解を深めてもらうことを目的に、あいち森と緑づくりシンポジウムを開催しました。

・あいち森と緑づくり委員会

事業の円滑な推進のため、あいち森と緑づくり委員会を3回開催しました。

2018年度実績

区分 年度	人工林整備			里山林整備				木の香る 学校づくり		県産 木材 利活用 推進
	奥地 (ha)	公道・河 川沿い等 (ha)	計 (ha)	里山林 再生整備 (箇所)	提案型 里山林整備 (箇所)	里山林 健全化整備 (箇所)	計 (箇所)	机・椅子	その他	
2018	1,421	238	1,659	14 (13)	3 (1)	9 (1)	26 (15)	3,743セット +机1,831台 +椅子15台 +天板25台	573台	14件

注1：人工林整備の面積はha未満を四捨五入した。従って、内訳と計は必ずしも一致しない。

注2：里山林整備の()は前年度からの継続事業で、外数。

注3：木の香る学校づくりのその他の「台」は、下駄箱、ロッカー、教卓、教壇及び遊具。

〈主要な問題の解説〉

2018年度 あいち森と緑づくり事業の実施事例

1 人工林の整備（間伐）

(1) 奥地林の間伐

場 所 新城市富保 地内

面 積 50.41ha

コメント 木の生育が悪く、また道から遠いことから採算性が悪い
ため整備が進まない人工林の間伐を実施しました。



(2) 公道沿いの間伐

場 所 豊田市西梶尾町 地内

面 積 70.77ha

コメント 車の通行等によって作業がしにくく、経費がかかり増しになるため、森林所有者では整備が困難な人工林の間伐を実施しました。



2 里山林の整備

(1) 里山林再生整備

場 所 豊田市桂野町

面 積 1.8ha

コメント 放置されて竹が侵入拡大した里山林を除伐し、地域の人々が気軽に散策できるように歩道や木製階段を設置しました。



(2) 提案型里山林整備

場 所 岡崎市大井野町

面 積 3.6ha

コメント 里山林の保全活動や散策の休憩場所として、あいち認証材を使った東屋やベンチに対して支援しました。



3 木の香る学校づくり推進

場 所 名古屋市立神丘中学校

コメント 生徒に県産木材の良さを考える機会になるよう、中学校へのあいち認証材を使った机・椅子等の導入に対して支援しました。



4 愛知県産木材利活用推進

場 所 豊根村茶臼山高原

コメント あいち認証材を知っていただく機会になるように公共施設へのあいち認証材を使ったベンチの導入を支援しました。



9 時の話題

「第70回全国植樹祭」を開催しました

2019年6月2日（日）、天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、尾張旭市と名古屋市守山区に広がる愛知県森林公園をメイン会場として「第70回全国植樹祭」を開催しました。

当日は、暑さが和らぎ天候にも恵まれる中、式典会場と県内3カ所に設けたサテライト会場と合わせて、約1万5千人の方々に御参加をいただき、成功を収めることができました。

この大会を通して、「愛知の誇るものづくりの伝統と文化」、「森と緑づくりや木づかい」など、愛知県の魅力や取組を全国に発信しました。

【第70回全国植樹祭の概要】

- 主催 公益社団法人国土緑化推進機構・愛知県
- 開催理念 私たちは、「木材の利用」を山村（やま）と都市（まち）をつなぐ架け橋とし、健全で活力のある「森林（もり）づくり」と「都市（まち）づくり」を進めていきます。
- 大会テーマ 木に託す もり・まち・人の あす・未来
- 開催日 2019年6月2日（日）
- 開催場所

○参加者数

式典・植樹会場	愛知県森林公園 (尾張旭市、名古屋市守山区)	参加区分		参加者	式典参加者
		植樹会場	愛知県昭和の森（豊田市） 愛知県森林・林業技術センター（新城市）	招待者	中央特別招待者
	県外招待者			984人	
	県内招待者			5,146人	
サテライト会場	オアシス21（名古屋市東区） 豊橋総合動植物公園（豊橋市） 尾張旭市澁川福祉センター（尾張旭市）	実施本部員・出演者		3,172人	-
		サテライト会場参加者		5,770人	
		合計		15,096人	

【式典・記念植樹の様子】



天皇陛下のおことば



お手植え



お手播き



式典会場全景



エピローグアトラクション



記念植樹

【会場での木材利用（愛知県産木材を利用）】



お野立所・御机・お手播き箱

左：特別招待者席
右：特別招待者席椅子



左：木材と花のモニュメント
右：ベンチやモニュメント



「第48回全国林業後継者大会あいち2019」を開催しました

全国林業後継者大会は、1970年の第21回全国植樹祭（福島県）の開催前日に行われた「全国林業後継者の集い」を前身として、1973年の全国植樹祭（宮崎県）以来、「全国林業後継者大会」と命名され、毎年全国植樹祭の関連事業として開催されています。本県では、1979年の第8回全国林業後継者大会を設楽町で開催してから、40年ぶり2回目の第48回全国林業後継者大会を2019年6月1日に豊田市にて開催しました。

【第48回全国林業後継者大会の概要】

- 開催目的 全国の森林・林業関係者が一堂に会し、次世代を担う若者とともに、森林・林業に対する魅力や期待を語り合い、夢を持って林業へチャレンジする姿を全国へ発信する。
- 大会テーマ **もりとまちをつなぐ 夢へのチャレンジ**
- 開催日 **2019年6月1日（土）**
- 開催場所 豊田市コンサートホール（豊田参合館10階）
- 参加者 森林・林業関係者
560名（県外180名 県内380名）



豊田参合館



豊田市コンサートホール

【主な大会プログラム】

○開会式典（オープニング、開会の言葉、主催者挨拶、来賓祝辞）

豊田市出身のオルガニスト都築由理江さんによるパイプオルガン演奏に続いて、大会実行委員会会長による開会の言葉、副知事、全林研会長、豊田市市長の挨拶、林野庁長官、全林協専務理事の祝辞がありました。

○活動発表

これから森林・林業へチャレンジする林業後継者を代表して、県立安城農林高校の生徒3名による研究発表を行い、県内若手林業者3名が、林業にチャレンジしたきっかけや意気込み、活動状況の発表を行いました。



安城農林高校 酒井さん 山本さん 二宮さん
奏林舎 唐澤さん
新城キッコーリーズ 田實さん
豊田森林組合 塚田さん

○パネルディスカッション

活動発表を行った4名のほか5名を加えて、高校生2名、林業者4名、森林所有者1名、木材加工事業者1名、コーディネーター1名の計9名で林業の魅力や理想とする林業の姿についてディスカッションを行いました。



猿投農林高校 安藤さん
古橋会 古橋さん
設楽森林組合 山田さん
西垣林業 西垣さん
コーディネーター 近藤さん

○閉会式典（大会宣言、次期開催県挨拶、閉会の言葉）

安城農林高校 森林環境科2年 山本凱渡さん、猿投農林高校 林産工芸科3年 安藤羽美さんによる大会宣言、次期開催県の島根県大会実行委員会会長の挨拶があり、大会実行委員会副会長の閉会の言葉で閉幕しました。



オープニング パイプオルガン演奏



活動発表



パネルディスカッション



大会宣言

新たな「あいち森と緑づくり事業計画」がスタートしました ～ 山^{やま}から街^{まち}まで緑豊かな愛知をめざして ～

「あいち森と緑づくり事業」は、「山(やま)から街(まち)まで緑豊かな愛知」の実現を目指し、県民共有の財産である「森と緑」を健全な状態で将来に引き継いでいくため、人工林の間伐や、里山林の整備、都市部の緑化や環境学習等を進めている事業で、2009年度から10年計画でスタートしました。

事業の財源は、県民税の超過課税である「あいち森と緑づくり税」の税収に加え、企業や団体等からのご寄附等を「あいち森と緑づくり基金」に積み立て、支出しています。

当初の10年計画は2018年度に終了することから、2017年度に事業評価を行い、有識者で構成される「あいち森と緑づくり委員会」からの意見を聞きながら、それまでの事業の実績や成果を取りまとめるとともに、今後取り組むべき課題等を確認しました。

事業評価で浮かび上がった今後取り組むべき課題

- ・間伐が必要な森林は依然として多く存在
- ・道路沿いや集落周辺の危険木への対策が必要
- ・人工林の高齢化が進んでおり、成長力の旺盛な森林への若返りが必要
- ・第70回全国植樹祭の開催理念を継承し、PR効果の高い施設や用途での県産木材の利用促進が必要

この事業評価を踏まえ事業を継続することとし、2018年度に10年間の新たな事業計画を策定し、2019年4月から事業がスタートしました。

新たな「あいち森と緑づくり事業計画」のポイントは次のとおりです。

新たな「あいち森と緑づくり事業計画」のポイント

- 継続して林業活動では整備が困難な人工林の間伐や作業道の整備を実施
特に、防災効果の高い公道沿い、集落周辺、河川沿いの間伐を重点的に実施
- 新たな取組として高齢化した人工林の若返りを図るため、「あいちニコ杉」等、少花粉苗への植え替えや苗の食害を防ぐためシカ等に対する防護柵の設置等を支援
- 全国植樹祭の開催理念を継承し、木材利用を促進していくため、愛知県産木材を利用したPR効果の高い建築物等を支援

事業計画本文はこちらをご覧ください。

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/shinrin/morimido-zigyuu-h310320-2.html>



間伐にあわせて防災・減災対策を実施（新城市）



愛知県産木材を利用した建築物等への支援（豊川市）

森林環境譲与税を活用した愛知県の取組について

1 事業目的と内容

森林経営管理法（2019年4月1日施行）を踏まえ、2019年度の税制改正において、森林環境税及び森林環境譲与税が創設されました。

都道府県における森林環境譲与税の用途は、市町村が行う間伐や人材育成・担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発等の森林整備及びその促進の支援等に関する費用とされています。

このため、本県の研修施設やこれまで蓄積した知見等を生かし、県が広域的に実施することが合理的かつ効果的な『①人材育成』、『②木材利用拡大』、『③森林情報整備』を3つの柱に、市町村が行う森林整備等の支援を実施しています。

2 背景、経緯、現状等

2019年4月1日 森林経営管理法施行（新たな森林管理制度の創設）

2019年4月1日 森林環境譲与税及び森林環境譲与税に関する法律施行

2019年9月30日 都道府県及び市町村へ森林環境譲与税の譲与開始(9月末と3月末に分けて譲与)

2019年12月20日 令和2年度(2020年度)税制改正の大綱 閣議決定(森林環境譲与税の譲与額の見直し)

3 森林環境譲与税を活用した県での取組内容

(1) 人材育成

担い手の確保・育成のため、各種イベントでの森の仕事PRや林業への就業相談会、林業高校生向け体験講座、林業従事者や市町村職員を対象とした各種研修等を実施しています。

(2) 木材利用拡大

木材の利用拡大のため、市町村職員等への研修、木材の新規用途の施工実証や木製品の研究開発及び普及啓発等を実施しています。

(3) 森林情報の整備

航空レーザ計測データを活用して、樹木一本一本の高さや太さ等詳細な森林資源情報や崩壊地等を含めた地形情報を整備し、順次市町村へ提供していきます。



人材育成研修の様子(植栽と獣害対策)



木材の普及啓発(モリコロパーク秋まつり)

4 「あいちの森づくり」県・市町村連絡調整会議

森林環境譲与税を活用して市町村が行う森林整備及び木材利用と、県独自課税であるあいち森と緑づくり税を活用した森林整備及び木材利用について、県と市町村が連携・協力のもと、円滑かつ効果的な実施が図られるよう事業地の調整などを行う、「あいちの森づくり」県・市町村連絡調整会議を尾張、海部、知多、西三河・豊田加茂、新城設楽・東三河の5地域で設立しました。事業調整に限らず、森林経営管理法に関する取組や森林環境譲与税を活用した取組について、市町村職員との意見交換や情報共有の場としても活用しています。



連絡調整会議(新城設楽・東三河)

ICTを活用したスマート林業の推進

1 林業におけるICTの導入・活用

近年、製造業やサービス業を始め、あらゆる業種においてICT（情報通信技術）の導入・活用が行われ、生産流通及び販売面で更に効率化・省力化が進み、低コスト化が図られています。林業におけるICTの導入・活用は、従前のシステムでは成し得なかった高度な木材生産・流通・加工体制等への変革を可能にし、競争力を確保するものです。

本県では、県内の林業・木材産業の成長産業化を図るため、「あいちのICT林業活性化構想」^{※1}に基づき、ICTを活用して木材生産や森林整備等の効率化、省力化に取り組み、県内の林業・木材産業の成長産業化を目指します。

※1…森林・林業・木材産業におけるICTの活用方法について、本県が目指す中長期の目標と取組をとりまとめたもの

2 ICTを活用したスマート林業の取組

航空レーザ計測により得られた詳細な森林資源情報や地形情報を活用し、「路網設計支援ソフトの導入」や、「林業現場のICT化の推進」等に取り組み、林業現場での実証を進め、スマート林業を推進しています。

(1) 2019年度の取組

ア 効率化・省力化の取組

～路網設計支援ソフトの開発・活用～

航空レーザ計測で得られた森林情報と地形情報を活用して、木材資源の分布状況や地形等を勘案した最適な路網配置のシミュレーションを効率的に行うことが可能となる路網設計支援ソフトを開発しました。

また、施業計画の策定にあたり、路網設計支援ソフトを活用することで、森林情報及び地形情報から選定した事業候補地の施業提案業務の省力化を図りました。

イ 効率性・採算性向上の取組

～林業現場のICT化の推進～

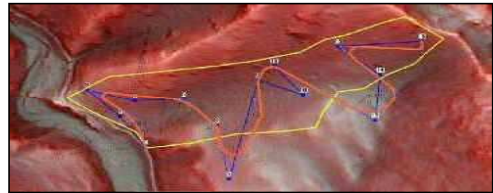
林業現場で地上レーザ計測や生産工程管理システムの実証調査を行い、ICT導入の効果を確認しました。また、森林組合職員等を対象に、ICT林業機器の実践的活用に向けた研修会を開催しました。

林業現場のICT化は、現場状況をリアルタイムで効率的に管理することを可能とし、林業の採算性向上が期待できます。

(2) 全国知事会関係「先進政策バンク」

～優秀政策としての事例発表～

農林基盤局林務部林務課が先進政策バンクに登録した「ICTを活用して林業の成長産業化を図る『スマート林業』の推進」が、農林水産分野において、2019年度の第1位の優秀政策に選定され、10月28日に都道府県会館で開催された第12回先進政策創造会議で、事例発表を行いました。



支援ソフトによる路網配置のシミュレーション



研修会の実施状況



先進政策バンク事例発表の状況

航空レーザ計測の実施とデータの活用について

1 航空レーザ計測の実施

本県では、航空レーザ計測の実施により取得したデータを解析し、詳細な地形情報や森林資源情報の整備を進めています。これらの情報は、治山施設整備のための山腹崩壊や流木災害発生の危険箇所の抽出の他、林道設計の合理化・省力化、計画的・安定的な木材生産・流通体制の構築、さらに、森林経営管理法に基づき市町村が実施する森林整備など様々な取組のための基礎データとしての活用が期待されています。

これまでに、県内全域の森林の航空レーザ計測を実施するとともに、東栄町及び蒲郡市の全域、豊田市、豊根村及び新城市の一部の民有林を対象とし、地形及び森林資源情報の解析を行い、以下の情報を整備しました。

◆ 地形情報

地面データである地盤高（DEM）から、微地形表現図及び傾斜区分図を作成しました。微地形表現図から崩壊地形や地すべり、浸食溝などの荒廃地形の抽出及び危険度の判定を行い、傾斜区分図及び地質等の既存資料から山腹崩壊危険度区分図を作成しました。

◆ 森林資源情報

DEMと樹冠部データである表層高（DSM）から、樹高データである樹冠高（DCHM）を作成しました。さらに、樹頂点の抽出や林相区分図などの作成を行い、樹種ごとの材積の推定を行いました。これらの解析結果から、森林の健全性の指標となる収量比数、相対幹距比、形状比及び樹冠長率等を求め、森林整備の参考とするための要整備森林分布図を作成しました。

2 具体的なデータの活用事例

◆ 治山事業による荒廃山地の予防・復旧対策

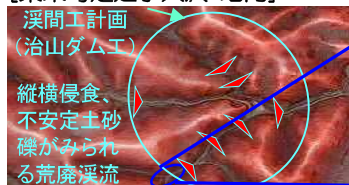
北設楽郡東部を対象に2018年度に作成した微地形表現図から抽出した荒廃箇所（荒廃溪流、崩壊や落石のおそれのある山腹等）において、危険性の内容に対応した治山施設設置による予防・復旧対策を2019年度から実施しております。また、荒廃箇所は、山地災害危険地区の点検、見直しに活用するとともに、荒廃箇所の分布図を市町村に提供し、地域住民の山地防災意識の向上等に活用しています。

<データを活用した治山施設等の実施（2019年度～2022年度）>

- ・計画箇所：北設楽郡東部（東栄町及び豊根村の一部） 7箇所
- ・対策内容：溪間工（治山ダム工19基）、山腹工（土留工、落石対策工など）、森林整備

○2019年度の実施状況

[東栄町足込字大沢 地内]

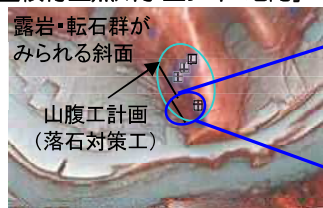


[不安定土砂礫の堆積]



[谷止工]

[豊根村上黒川字上ノ平 地内]



[亀裂が発達して落石
のおそれのある岩塊]



[固定工]
[落石防護柵工]

[微地形表現図]

[資料編]

目次

I 林業生産

1 産業別県内純生産の推移	46
2 所有形態別森林面積の状況	46
3 林種別・樹種別・林齢別面積・蓄積（地域森林計画対象森林）	47
4 森林資源の推移（地域森林計画対象森林）	47
5 伐採照査による伐採面積及び伐採立木材積の推移（地域森林計画対象森林）	48
6 林道等の現況及び林内路網密度・林道密度の推移	48
7 補助造林面積の推移	49
8 樹種別補助造林面積の推移	49
9 事業別人工造林の推移	49
10 事業別間伐面積の推移	50
11 山行苗木生産の推移	50
12 山行苗木価格の推移	51
13 林木育種事業の種子・さし穂採取実績の推移	51
14 素材生産量の推移	52
15 木材卸売価格の推移	52
16 主な特用林産物生産量の推移	53
17 主な特用林産物価格の推移	53

II 林業経営

18 保有山林規模別の林家数及び山林面積と農家林家数	54
19 森林経営計画及び森林施業計画認定面積	54
20 林業経営の総括（東海地域）の推移	55
21 部門別林業粗収益（東海地域）の推移	55
22 主要費目別経営費（東海地域）の推移	55
23 主要林業機械保有の推移	56
24 林業研究グループ数及び員数の推移	56
25 林業研修実施状況の推移	56
26 林業従事者数の推移	57
27 新規学卒者の就業動向（高等学校）	57
28 林業労働災害の推移	57
29 森林組合の事業総収益・総費用及び事業管理費の推移	58
30 森林組合林産事業等の推移	58
31 森林組合作業班員の年齢別及び性別人数	58
32 森林組合の就労日数別作業班員数の推移	59

33	森林組合作業班員の社会保障制度加入状況の推移	59
34	(独)農林漁業信用基金の活用状況の推移	59
35	林業・木材産業構造改革事業等実施内容	60

Ⅲ 木材産業

36	素材需要量の推移	62
37	部門別素材需要量の推移	62
38	木材需給量の推移(全国)	63
39	外材輸入量の推移(通関数量)	63
40	住宅建築の推移	64
41	製材工場数並びに製材工場素材入荷量・製材品出荷量の推移	64
42	木材チップの工場数及び生産量等の推移	65
43	木材・木材製品企業物価指数(全国平均)	65

Ⅳ 県土の保全

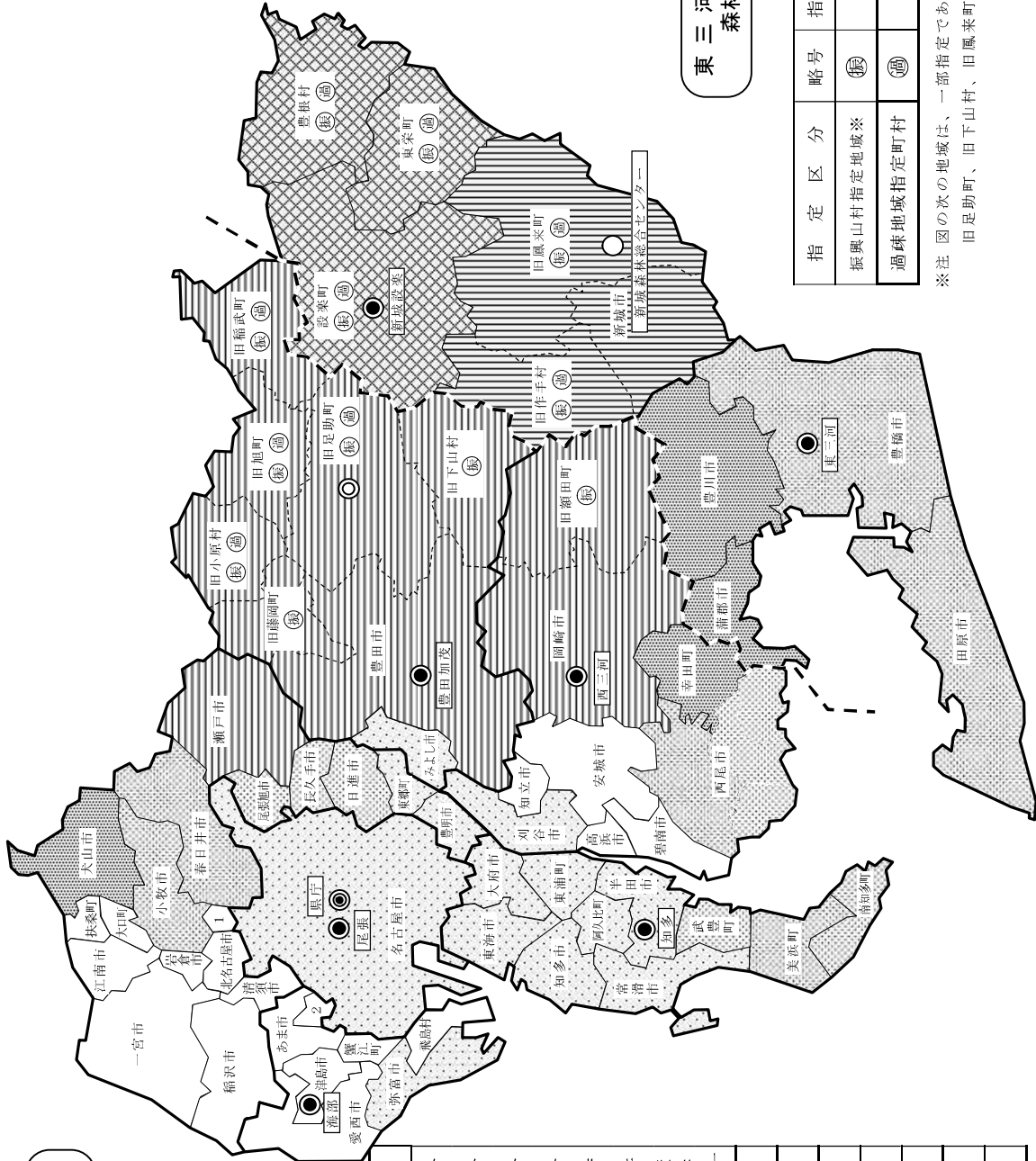
44	治山事業の推移	66
45	治山事業計画と進捗	66
46	保安林種別面積の推移	67
47	保安林指定解除面積の推移	67
48	転用目的別保安林解除の推移	68
49	林地開発許可の推移	68
50	林地開発連絡調整の推移	69
51	森林保全推進員による森林巡視の推移	69
52	森林の主要病虫獣の被害及び駆除の推移	70
53	森林災害予防啓発普及事業の実績	70
54	林野火災発生原因別面積の推移	71
55	森林国営保険損害てん補面積及び金額の推移	71

Ⅴ 自然とみどり

56	緑化思想高揚に関する児童・生徒作品応募点数の推移	72
57	緑の募金の推移	72
58	学校関係緑化コンクール参加校の推移	73
59	緑化推進事業実施状況の推移	73
60	緑化センター・昭和の森利用状況の推移	73
61	緑化研修実施状況の推移	74
62	植木センター利用状況の推移	74
63	植木センター研修実施状況の推移	74
64	あいち海上の森センター利用状況の推移	75
65	緑化木生産の推移	75
66	緑化樹木共進会の推移	76

67	県有林主要生産物の推移	76
68	森林公園利用状況の推移	77
69	県民の森利用状況の推移	77
70	「市町村の木」・「市町村の花」選定状況	78
VI あいち森と緑づくり		
71	あいち森と緑づくり事業（農林基盤局）の推移	79
VII 2019年度主な林政年譜		
		80

尾張西三河
森林計画区



1. 豊山町
2. 大治町

凡例	
---	森林計画区界
—	県農林水産事務所界
—	市町村界
- - -	区域
◎	県庁
●	県農林水産事務所
○	豊田加茂農林水産事務所森林整備課
○	新城森林総合センター
90%以上	
70%以上 90%未満	
50%以上 70%未満	森
30%以上 50%未満	林
10%以上 30%未満	率
10%未満	
	森林面積なし

東三河
森林計画区

指定区分	略号	指定市町村数
振興山村指定地域※	振	6
過疎地域指定町村	過	5

※ 注 図の次の地域は、一部指定である。
旧足助町、旧下山村、旧鳳来町、設楽町、東栄町

注：市町村名は2020年3月現在

I 林業生産

1 産業別県内純生産の推移

(単位：百万円)

区 分 \ 年 度	2012	2013	2014	2015	2017
1 産 業	26,075,400	26,845,154	26,961,715	27,748,168	28,101,638
(1) 第一次産業	133,901	116,164	101,056	118,225	142,735
農 業	118,160	103,235	86,509	101,846	124,508
林 業	1,537	1,164	1,036	1,006	1,100
水産業	14,205	11,765	13,511	15,372	17,127
(2) 第二次産業	9,981,502	10,508,880	10,774,884	11,335,340	11,220,561
(3) 第三次産業	15,959,997	16,220,110	16,085,775	16,294,603	16,738,342

注1 「あいちの県民経済計算」の計数は、最近年度を中心に推計方法等の改善により改訂を行うことがありますので、使用に当たっては注意してください。

注2 単位未満は四捨五入した。従って内訳と計は必ずしも一致しない。

資料：あいちの県民経済計算（県統計課）

2 所有形態別森林面積の状況

(単位：ha)

所 有 形 態		面 積	
総 数		218,117	
民 有 林	私 有 林	184,238	
	公 有 林	県 有 林	7,887
		市 町 村 有 林	5,837
		一 部 事 務 組 合 有 林	421
		財 産 区 有 林	7,728
		小 計	21,874
	計		206,112
	地 域 森 林 計 画 対 象 外 森 林		556
	合 計		206,668
	国 有 林	林 野 庁	11,068
そ の 他 省 庁		381	
合 計		11,450	

注1 単位未満は四捨五入した。従って内訳と計は必ずしも一致しない。

注2 2018年度調査結果

資料：県林務課

3 林種別・樹種別・林齢別面積・蓄積（地域森林計画対象森林）

単位 面積：ha
蓄積：千m³
(竹林：千束)

林種・樹種		林齢	1～10年	11～20年	21～30年	31～40年	41～50年	51～60年	61～70年	71年以上	合計
人工林	針葉樹	スギ	面積 48 蓄積 0	174 14	617 103	2,037 531	5,992 1,981	14,553 5,722	11,342 5,053	15,483 7,975	50,246 21,380
		ヒノキ	面積 49 蓄積 0	636 24	3,034 268	7,165 1,071	10,560 2,245	14,946 3,786	8,513 2,342	16,556 5,071	61,458 14,807
		マツ類・その他	面積 42 蓄積 0	65 1	69 3	80 7	600 96	4,259 825	4,696 755	9,239 1,432	19,050 3,119
	広葉樹	面積 26 蓄積 0	77 3	70 4	50 4	44 3	32 3	53 7	31 5	383 28	
	小計	面積 164 蓄積 1	952 41	3,790 379	9,333 1,612	17,195 4,325	33,789 10,335	24,604 8,157	41,310 14,483	131,137 39,334	
天然林	針葉樹	マツ類	面積 1 蓄積 0	1 0	1 0	5 0	37 5	465 79	1,460 248	11,216 2,032	13,184 2,365
		その他	面積 0 蓄積 0	0 0	0 0	0 0	0 0	3 1	5 1	177 51	186 53
	広葉樹	面積 113 蓄積 1	172 6	319 17	1,823 115	3,478 271	5,805 619	20,592 2,528	24,324 3,288	56,626 6,845	
	小計	面積 114 蓄積 1	172 6	320 17	1,828 116	3,515 276	6,273 699	22,057 2,777	35,718 5,372	69,996 9,263	
計	面積 278 蓄積 2	1,124 47	4,110 395	11,160 1,728	20,710 4,601	40,062 11,034	46,661 10,935	77,027 19,854	201,132 48,597		
その他	竹林 面積 2,327 蓄積 3,025		無立木地面積 2,640 更新困難地面積 13		面積総数 206,112						

注 単位未満は四捨五入した。従って内訳と計は必ずしも一致しない。

資料：県林務課

4 森林資源の推移（地域森林計画対象森林）

単位 面積：千ha
蓄積：千m³
(竹林：千束)
1ha当たり蓄積：m³

年 度	林種・樹種 面積・蓄積	林 種 別					樹 種 別 (人工林・天然林)				
		総 数	人工林	天然林	竹 林	無立木地	針葉樹計	スギ	ヒノキ	マツその他針	広葉樹
2008	面 積	207	132	70	2	3	145	50	62	33	57
	蓄 積	43,009	34,320	8,689	3,095	-	36,655	18,791	12,671	5,193	6,353
	1ha当たり蓄積	208	261	123	-	-	253	373	206	158	111
2013	面 積	207	132	70	2	3	145	50	62	33	57
	蓄 積	46,000	36,989	9,012	3,065	-	39,364	20,164	13,810	5,390	6,636
	1ha当たり蓄積	222	281	128	-	-	272	400	224	165	116
2018	面 積	206	131	70	2	3	144	50	61	32	57
	蓄 積	48,597	39,334	9,263	3,025	-	41,723	21,380	14,807	5,537	6,874
	1ha当たり蓄積	236	300	132	-	-	289	426	241	171	121

注 単位未満は四捨五入した。従って内訳と総数は必ずしも一致しない。

資料：県林務課

5 伐採照査による伐採面積及び伐採立木材積の推移（地域森林計画対象森林）

（単位 面積：ha
材積：百 m³）

年度	人天別	面積			材積		
		総数	主伐	間伐	総数	主伐	間伐
2013	総数	3,056	284	2,772	2,811	417	2,394
2014	総数	3,224	156	3,068	2,707	316	2,391
2015	総数	2,586	173	2,413	2,591	273	2,319
2016	総数	2,347	311	2,036	1,858	506	1,352
2017	総数	2,938	174	2,764	3,079	471	2,608
2018	総数	1,936	140	1,796	2,062	263	1,800
	人工林	1,836	40	1,796	1,931	132	1,800
	天然林	100	100	-	131	131	-

注 単位未満は四捨五入した。従って内訳と総数は必ずしも一致しない。

資料：県林務課

6 林道等の現況及び林内路網密度・林道密度の推移

（単位 延長：km
密度：m/ha）

区分 年度	現況道路延長				密度	
	公道	林道	作業道	計	林内路網	林道
2013	2,410	1,421	1,001	4,832	23.4	6.9
2014	2,417	1,424	1,033	4,873	23.6	6.9
2015	2,417	1,427	1,046	4,890	23.7	6.9
2016	2,418	1,439	1,049	4,906	23.8	7.0
2017	2,419	1,441	1,069	4,929	23.9	7.0
2018	2,419	1,447	1,080	4,946	23.9	7.0

注 (1)公道には、国道、県道、市町村道ならびにその他道路のうち

林地から200m以内の道路を計上している。

ただし、200m以内であっても、人家密集地の公道は含んでいない。

(2)単位未満は四捨五入した。従って内訳と計は必ずしも一致しない。

資料：県森林保全課

7 補助造林面積の推移

(単位：ha, 件)

区分 年度	総数	再造林	拡大造林	造林件数	1件当たり 平均造林面積
2013	5	5	-	5	1.00
2014	2	1	2	3	0.80
2015	4	3	1	6	0.65
2016	14	14	-	18	0.80
2017	17	17	-	22	0.79
2018	16	16	-	18	0.91

注 単位未満は四捨五入した。従って内訳と総数は必ずしも一致しない。

資料：県森林保全課

8 樹種別補助造林面積の推移

(単位：ha)

区分 年度	総数	スギ	ヒノキ	マツ類	その他 樹種	樹種別比率(%)			
						スギ	ヒノキ	マツ類	その他
2013	5	4	1	-	-	87.6	12.4	-	-
2014	2	-	2	-	-	-	100.0	-	-
2015	4	3	1	-	0	72.1	20.2	-	7.7
2016	14	3	5	-	6	21.9	36.6	-	41.5
2017	17	8	7	-	3	45.0	39.1	-	15.9
2018	16	5	7	-	5	31.1	40.1	-	28.8

注 単位未満は四捨五入した。従って内訳と総数は必ずしも一致しない。

資料：県森林保全課

9 事業別人工造林の推移

(単位：ha)

区分 年度	総数	造林補助事業	治山事業	自力造林
2013	20	5	8	7
2014	13	2	1	10
2015	16	4	2	10
2016	23	14	2	7
2017	31	17	4	10
2018	25	16	5	3

注 単位未満は四捨五入した。従って内訳と総数は必ずしも一致しない。

資料：県森林保全課

10 事業別間伐面積の推移

(単位：ha)

区分 年度	総数	造林補助事業	治山事業	あいち森と 緑づくり事業	水源林対策事 業	市町村事業	その他 県実施事業
2014	3,082	772	325	1,248	562	175	
2015	3,026	525	280	1,507	548	166	
2016	3,373	702	325	1,662	536	149	
2017	3,254	757	243	1,593	547	105	8
2018	3,193	631	207	1,659	371	319	6

注 単位未満は四捨五入した。従って内訳と総数は必ずしも一致しない。

資料：県森林保全課

11 山行苗木生産の推移

(単位：千本)

区分 年度	総数	樹種別生産の内訳							
		さしスギ	スギ	ヒノキ	アカマツ	クロマツ	計	ヤシヤブシ	有用広葉樹
2013	90	—	13	22	—	—	35	—	55
2014	63	—	12	26	—	—	38	—	25
2015	96	2	13	80	—	—	95	—	1
2016	76	—	4	70	—	—	74	—	2
2017	94	—	25	64	—	—	89	—	5
2018	96	—	13	73	—	—	86	—	10

注 単位未満は四捨五入した。従って内訳と総数は必ずしも一致しない。

県の林木育種事業による生産実績は含まない。

資料：県林務課

12 山行苗木価格の推移

(単位：円)

区分 年度	樹種	サシスギ	スギ		ヒノキ		スギ・ヒノキ (コンテナ)	アカマツ・クロマツ	
	苗齢	2年	2～3年		3年		2年	2～3年	
	苗長	45cm	35cm	45cm	35cm	45cm	35cm	25cm	30cm
	根元径	7.0mm	8.0mm	9.0mm	6.0mm	7.0mm	—	6.0mm	7.0mm
2013		100.00	95.00	100.00	100.00	105.00	175.00	55.00	70.00
2014		100.00	95.00	100.00	100.00	105.00	175.00	55.00	70.00
2015		100.00	95.00	100.00	100.00	105.00	175.00	55.00	70.00
2016		100.00	95.00	100.00	100.00	105.00	175.00	55.00	70.00
2017		105.00	105.00	105.00	105.00	105.00	175.00	—	—
2018		—	105.00	105.00	105.00	105.00	175.00	—	—

資料：県林務課

注 苗木価格には消費税を含まない。

13 林木育種事業の種子・さし穂・さしスギ生産実績の推移

(単位 種子：kg
さし穂：千本
さしスギ：千本)

区分 年度	種子				スギさし穂	さしスギ
	総数	スギ	ヒノキ	クロマツ		
2013	78	11	54	13	16	5
2014	68	9	43	16	16	6
2015	100	21	63	16	17	4
2016	103	15	70	18	17	3
2017	88	13	61	14	17	7
2018	82	12	55	15	17	6

資料：県林務課

14 素材生産量の推移

(単位：千 m³)

区分 年次	総 数	内 訳	
		針葉樹	広葉樹
2013	102	90	12
2014	116	111	6
2015	121	112	9
2016	141	133	8
2017	131	128	3
2018	128	121	6

注1 薪炭用、きのご用原木は含まない。

注2 単位未満は四捨五入した。従って内訳と総数は必ずしも一致しない。

資料：県林務課

15 木材卸売価格の推移

(単位：円/m³)

区分 年次	国 産 材						米 材	
	スギ 小丸太	ヒノキ 小丸太	スギ 中丸太	ヒノキ 中丸太	スギ 正角 (乾燥材) 2級	ヒノキ 正角 (乾燥材) 2級	米ツガ No. 3	米マツ 平角 2級
	14 cm未満 4m		24 cm ~ 28 cm 4m	16 cm ~ 18 cm 3m	10.5 cm 角 3m	10.5 cm 角 3m	30 cm上 6.0m上	厚10.5 ~12cm 巾24cm 4m
2013	6,200	12,800	13,100	18,900	64,800	86,200	20,000	65,300※
2014	6,000	10,000	14,000	20,500	72,300	98,200	24,200	68,400
2015	6,000	10,000	14,000	17,200	71,100	91,400		69,800
2016	5,000	9,500	13,900	16,500	70,600	90,600		69,400
2017	8,000	11,000	13,300	16,600	71,900	92,900		69,600
2018	7,500	10,000	13,900	17,000	67,700	93,000		71,700

注※ 2013年1月から調査対象品目及び平均価格の集計方法を変更したことによる変動を含む。

資料：県林務課（愛知県林産物生産流通動態調査で1~12月各月価格の平均値を100円未満四捨五入）

16 主な特用林産物生産量の推移

〔単位 竹材：千束
その他：トン〕

区分 年次	乾しいたけ	生しいたけ	ひらたけ	なめこ	エリンギ	わさび	竹材	黒炭
2013	6	584	6	2	33	4	1	36
2014	5	644	7	5	35	4	1	35
2015	2	840	8	3	47	4	1	28
2016	4	948	4	2	45	4	1	18
2017	7	879	3	2	45	3	2	27
2018	16	829	3	1	45	3	1	30

資料：県林務課

17 主な特用林産物価格の推移

(単位：円)

区分 年度	生しいたけ	まつたけ			竹材	くり
		全体	国内産	外国産		
2013	841	5,862	25,115	5,507	5,000	672
2014	903	6,548	22,292	5,998	10,000	675
2015	966	7,614	13,797	7,019	10,000	904
2016	956	6,055	22,188	5,962	2,750	906
2017	957	7,612	28,393	7,567	2,750	825
2018	931	6,875	16,069	6,807	2,750	792

注1 価格はkg当たり。ただし、竹材は1束（まだけ 目通径5cm 8本）当たり、2016年以降は1本当たりの価格。

注2 生しいたけ、まつたけ、くりは、名古屋市中央卸売市場価格による。

注3 竹材は、愛知県竹材組合調べ。

資料：県林務課

Ⅱ 林業経営

18 保有山林規模別の林家数及び山林面積

〔単位 戸数：戸
面積：ha〕

区分 規模	2015年		2010年	
	林家戸数	山林面積	林家戸数	山林面積
1～3	7,502	12,396	8,274	13,695
3～5	2,074	7,398	2,256	8,022
5～10	1,553	10,096	1,677	10,909
10～20	816	10,327	879	11,209
20～30	278	6,333	261	5,990
30～50	212	7,427	210	7,316
50～100	113	7,491	123	8,051
100～500	83	18,894	74	14,600
500ha以上	10	11,656	12	13,516
計	12,641	92,018	13,766	93,308

注1 単位未満は四捨五入した。従って内訳と計は必ずしも一致しない。

資料：2010年世界農林業センサス及び2015年農林業センサス

19 森林経営計画及び森林施業計画認定面積

〔単位 件数：件
面積：ha〕

区分 年度	総数		森林経営計画		森林施業計画	
	件数	面積	件数	面積	件数	面積
2013	58	10,733	48	8,381	10	2,352
2014	85	12,341	80	10,369	5	1,972
2015	103	13,010	100	11,561	3	1,449
2016	120	8,523	119	8,466	1	57
2017	134	9,685	134	9,685	—	—
2018	128	9,314	128	9,314	—	—

注1 当該年度の3月31日時点で有効な計画の合計。

注2 ha未満は四捨五入した。従って内訳と総数は必ずしも一致しない。

資料：県林務課

20 林業経営の総括（東海地域）の推移

(単位：千円)

区分 年次	林業所得	林業粗収益	林業経営費
1988	2,896	4,706	1,810
1993	2,188	4,306	2,118
1998	1,338	2,932	1,594
2003	487	2,800	2,313
2008	807	3,530	2,723
2013	499	2,593	2,094

注1 1戸当たりの平均である。

注2 2008年次以降、調査期間が5年毎に変更され、次回調査は2018年次調査（見込み）

資料：農林水産省統計部「林業経営統計調査」（東海地域の20ha以上所有林家の平均）

21 部門別林業粗収益（東海地域）の推移

(単位：千円)

区分 年次	総数	内 訳		
		立木販売	素材生産	その他
1988	4,706	2,340	1,830	536
1993	4,306	1,903	1,975	428
1998	2,932	1,168	1,272	492
2003	2,800	521	2,049	230
2008	3,530	347	2,040	1,143
2013	2,593	9	1,999	585

注1 1戸当たりの平均である。

注2 立木販売の粗収益は、経営山林の立木売却によるものである。

注3 素材生産の粗収益は、経営山林又は買山の立木から生産する素材の販売によるものである。

注4 単位未満は四捨五入した。従って内訳と総数は必ずしも一致しない。

注5 2008年次以降、調査期間が5年毎に変更され、次回調査は2018年次調査（見込み）

資料：農林水産省統計部「林業経営統計調査」（東海地域の20ha以上所有林家の平均）

22 主要費目別経営費（東海地域）の推移

(単位：千円)

区分 年度	総数	内 訳				
		雇用労賃	原木費	機械修繕費	請負わせ料金	その他
1988	1,810	707	12	83	529	479
1993	2,188	612	24	70	650	832
1998	1,594	311	7	107	637	532
2003	2,313	739	32	212	382	948
2008	2,723	1,026	15	223	430	1,029
2013	2,094	474	1	352	431	836

注1 1戸当たりの平均である。

注2 単位未満は四捨五入した。従って内訳と総数は必ずしも一致しない。

注3 2008年次以降、調査期間が5年毎に変更され、次回調査は2018年次調査（見込み）

資料：農林水産省統計部「林業経営統計調査」（東海地域の20ha以上所有林家の平均）

23 主要林業機械保有の推移

(単位：台)

区分 年度	集材機	積込機	自走式搬器	林内作業車	高性能 林業機械
2013	93	77	65	104	63
2014	88	78	62	105	65
2015	75	88	58	96	72
2016	79	100	59	96	78
2017	76	99	57	101	88
2018	79	95	64	109	88

注 国有林は含まない。

資料：県林務課

24 林業研究グループ数及び員数の推移

(単位 グループ数：数
グループ員数：人)

区分 年度	グループ数	グループ員数		
		総数	男	女
2013	9	179	156	23
2014	9	175	152	23
2015	9	176	154	22
2016	9	172	152	20
2017	9	169	150	19
2018	9	167	146	21

資料：県林務課

25 林業研修実施状況の推移

(単位 日数：日
受講者：延人数)

区分 年度	担い手等 育成研修		林業普及 指導研修		林政研修		森林施業プランナー フォレストリーダー研修		計	
	日数	受講者	日数	受講者	日数	受講者	日数	受講者	日数	受講者
2013	17	436	66	548	6	81	16	118	105	1,183
2014	43	847	39	446	4	39	8	148	94	1,480
2015	37	609	46	345	6	74	8	104	97	1,132
2016	54	847	16	143	6	73	7	43	83	1,106
2017	54	683	17	198	6	52	7	42	84	975
2018	48	636	16	213	7	54	7	19	78	922

※ 2013年度は森林施業プランナー・フォレストリーダー研修の合計。2014年度は森林施業プランナーのみ。

資料：県林務課

26 林業従事者数の推移

(単位：人)

区分 年次	総数	事務所別							
		名古屋市	尾張	知多	西三河	豊田加茂	設楽	新城	東三河
1983	2,191	—	5	—	233	580	708	513	152
1988	1,856	—	7	—	189	581	549	391	139
1993	1,400	—	9	—	126	438	439	260	128
1998	878	—	10	—	115	254	250	182	67
2003	676	—	8	—	111	197	150	154	56
2008	583	—	6	2	79	190	104	142	60
2013	539	3	4	2	82	170	106	97	75
2018	558	—	35	5	88	167	79	107	77

注 2003年次から稲武町は設楽から豊田加茂に編入。

資料：県林務課「林業労働者就労動向調査」（調査は5年毎に実施。年間30日以上 of 林業労働従事者数）

27 新規学卒者の就業動向（高等学校）

(単位：人)

区分 年度	卒業生 A	就職者 B	割合% B/A	うち第1次 産業従事者 C	割合% C/B	うち林業従事者 D	割合% D/C
2013	61,326	11,432	18.6	50	0.4	3	6.0
2014	63,156	11,819	18.7	35	0.3	0	—
2015	63,579	12,192	19.2	53	0.4	1	1.9
2016	65,204	12,696	19.5	45	0.4	1	2.2
2017	64,684	12,596	19.5	50	0.4	0	—
2018	64,353	12,656	19.7	60	0.5	1	1.7

資料：県統計課「学校基本調査」、うち林業従事者は県林務課

28 林業労働災害の推移

(単位 比率：%
その他：人)

区分 年度	全産業(A)		林業(B)		比率(B/A)	
	死亡	休業4日以上	死亡	休業4日以上	死亡	休業4日以上
2013	54	6,480	1	25	1.9	0.4
2014	61	6,642	—	27	—	0.4
2015	48	6,301	1	17	2.1	0.3
2016	43	6,317	1	11	2.3	0.2
2017	44	6,706	3	17	6.8	0.3
2018	46	7,071	—	13	—	0.2

資料：愛知労働局

29 森林組合の事業総収益・総費用及び事業管理費の推移

(単位：千円)

区分 年度	組 合 数	事業総収益	総 費 用	事業管理費
2013	7	3,323,551	2,116,977	976,513
2014	6	2,871,825	1,921,442	929,181
2015	6	3,168,740	2,065,163	1,000,156
2016	6	2,760,586	1,748,270	986,771
2017	6	2,775,176	1,801,712	980,615
2018	6	2,865,795	1,825,482	1,013,147

資料：県林務課

30 森林組合林産事業等の推移

(単位 素材・製材品取扱量：m³
その他：ha)

区分 年度	素材・製材品取扱量				新 植	保 育
	総 数	林産事業	販売事業	加工事業		
2013	60,689	40,585	17,975	2,129	4	2,579
2014	67,823	47,847	18,125	1,851	3	2,057
2015	67,896	43,064	23,129	1,703	8	2,120
2016	69,239	43,317	24,440	1,482	10	1,848
2017	76,182	61,802	12,624	1,756	10	1,717
2018	80,468	71,474	7,804	1,190	18	1,836

資料：県林務課

31 森林組合作業班員の年齢別及び性別人数

(単位：人)

区分 年度	総 数			29 歳以下			30～39 歳			40～59 歳			60 歳以上		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
2013	263	25	288	13	-	13	45	3	48	81	7	88	124	15	139
2014	239	23	262	16	-	16	39	1	40	78	8	86	106	14	120
2015	239	26	265	18	1	19	36	1	37	72	7	79	113	17	130
2016	228	17	245	14	1	15	38	1	39	83	8	91	93	7	100
2017	227	18	245	15	2	17	27	1	28	88	8	96	97	7	104
2018	210	15	225	13	3	16	34	2	36	97	6	103	66	4	70

資料：県林務課

32 森林組合の就労日数別作業班員数の推移

(単位：人)

区分 年度	総数	59日以下	60～149日	150日以上
2013	288	50	72	166
2014	262	54	59	149
2015	265	57	61	147
2016	245	41	66	138
2017	245	44	48	153
2018	225	28	36	161

資料：県林務課

33 森林組合作業班員の社会保障制度加入状況の推移

(単位：人)

区分 年度	総数	雇用保険	健康保険	厚生年金	中小企業 退職金共済	林業退職金共済
2013	288	151	146	146	127	9
2014	262	142	137	137	122	6
2015	265	138	130	133	116	8
2016	245	167	138	138	128	6
2017	245	171	143	135	129	7
2018	225	171	149	140	146	10

資料：県林務課

34 (独) 農林漁業信用基金の活用状況の推移

(単位：千円)

区分 年度	年度末出資額			保証倍率 (倍)	保証承諾		年度末保証残高	
	県		林業者等 金額		件数	金額	件数	金額
	金額	出資者数						
2013	46,300	102	56,650	42.25	18	419,666	30	668,986
2014	46,300	103	56,760	42.25	16	336,082	28	595,574
2015	46,300	103	56,760	43	21	525,692	26	553,903
2016	46,300	103	56,760	43	13	303,847	23	460,754
2017	46,300	102	56,921	43	10	266,552	19	336,719
2018	46,300	70	37,311	43	10	270,530	18	272,833

資料：県林務課

35 次世代林業基盤づくり事業等実施内容

(次世代林業基盤づくり事業(旧 林業・木材産業構造改革事業))

(単位：千円)

年度	区 分	地 域 名	事 業 主 体	事業費	主 な 事 業 内 容
2014	林業機械作業システム整備	豊 田 市	豊田森林組合	20,000	ログローダ1台
2016	木材加工流通施設等整備	半 田 市	ニチハマテックス㈱	1,265,590	木質セメント板製造ライン整備一式
	木材加工流通施設等整備	飛 島 村	吉村製材㈱	13,700	帯鋸盤用オートテーブル式
	高性能林業機械等の整備	名 古 屋 市	(公財)愛知県林業振興基金	66,000	ハーベスタ1台、タワーヤーダ1台
2017	木材加工流通施設等整備	蒲 郡 市	江間忠ウッドベース㈱	203,800	プレカット加工機一式
	木材加工流通施設等整備	豊 田 市	西垣林業㈱	2,196,124	製材工場整備一式
	木材加工流通施設等整備	新 城 市	㈱東海林材市場	21,000	ログローダ1台
	高性能林業機械等の整備	豊 田 市	㈱緑豊	20,000	プロセッサ1台
2018	木材加工流通施設等整備	豊 田 市	太陽木材工業㈱	80,255	集成材加工機械整備一式
	木材加工流通施設等整備	飛 島 村	津田産業㈱	49,000	マルチアングルカットソー1台
	高性能林業機械等の整備	豊 田 市	㈱佐合木材	48,180	プロセッサ1台、スイングヤーダ1台
	高性能林業機械等の整備	豊 田 市	豊田森林組合	57,950	プロセッサ1台、フォワード1台、スイングヤーダ1台
	木質バイオマス供給施設整備	新 城 市	新城市	70,917	薪ボイラー及びびボイラー用燃料供給保管施設一式
	木造公共施設等整備	東 栄 町	東栄町	180,970	とうえい保育園 838 m ²

(森林整備加速化・林業再生事業)

(単位：千円)

年度	区 分	地域名	事業主体	事業費	主な事業内容
2011	高性能林業機械等の導入	豊橋市	(株)東海林材市場	28,900	フォワーダ・プロセッサ各1台
	高性能林業機械等の導入	岡崎市	岡崎森林組合	10,685	フォワーダ 1台
	木材加工流通施設等整備	蒲郡市	江間忠ウッドベース(株)	113,690	熱処理木材製造装置整備一式
	木材加工流通施設等整備	愛西市	片桐銘木工業(株)	30,500	グレーディングマシン1基、木材乾燥機1基
2012	木材加工流通施設等整備	設楽町	(株)東海木材相互市場	87,560	山元貯木場整備一式
2013	木材加工流通施設等整備	大口町	(株)東海プレカット	120,000	プレカット加工機 1基
	高性能林業機械等の導入	岡崎市	岡崎森林組合	19,200	プロセッサ 1台
	高性能林業機械等の導入	新城市	新城森林組合	14,000	プロセッサ 1台
	木材加工流通施設等整備	豊橋市	(株)東海林材市場	24,216	グラブ付トラック 1台
	木材加工流通施設等整備	名古屋市	ニチハ(株)	104,936	木質セメント板製造ライン整備一式[第一期工事]
	木造公共施設等整備	新城市	新城市	6,041	守義公衆便所 21㎡
	木造公共施設等整備	田原市	田原市	4,598	大草小学校相撲場 44㎡
	木造公共施設等整備	岡崎市	岡崎市	4,493	宮崎学区市民ホーム 251㎡(木質内装)
2014	木造公共施設等整備	東郷町	(有)アシスト	37,406	デイサービス・地域交流センター 374㎡
	木材加工流通施設等整備	名古屋市	ニチハ(株)	374,579	木質セメント板製造ライン整備一式[第二期工事]
	木材加工流通施設等整備	小牧市	すてきなイスグループ(株)	181,000	製品倉庫 1棟
	高性能林業機械等の導入	名古屋市	(公財)愛知県林業振興基金	12,003	車両系木材伐出機械危険防止設備整備 延べ67台
	高性能林業機械等の導入	東栄町	東栄町森林組合	14,900	スイングヤード 1台
	木材加工流通施設等整備	大口町	(株)東海木材相互市場	21,800	ログローダ 1台
	木造公共施設等整備	岡崎市	愛知県	53,936	愛知県がんセンター愛知院 地域緩和ケアセンター 289㎡
	木造公共施設等整備	新城市	新城市	102,751	道の駅「もっくる新城」 1,074㎡
2015	木造公共施設等整備	田原市	田原市	288,436	稲場保育園 1,399㎡
	高性能林業機械等の導入	豊田市	豊田森林組合	32,900	プロセッサ 1台、フォワーダ 1台
	高性能林業機械等の導入	豊橋市	(株)東海林材市場	20,000	スイングヤード 1台
	高性能林業機械等の導入	岡崎市	(有)池野商店	48,000	プロセッサ 1台、スイングヤード 1台
	木材加工流通施設等整備	蒲郡市	江間忠ウッドベース(株)	94,350	熱処理木材製造装置整備一式、合板加工機 1基
	木材加工流通施設等整備	設楽町	(株)材幸	17,000	木材乾燥機 1基
	木材加工流通施設等整備	飛島村	上地木材(株)	75,980	モルダーライン整備一式
	木材加工流通施設等整備	大口町	(株)東海プレカット	109,000	プレカット加工機 1基
	木材加工流通施設等整備	愛西市	片桐銘木工業(株)	35,500	モルダー 1基、糊付機 1基
	木材加工流通施設等整備	弥富市	材惣木材(株)	96,320	2×4 スタッド製造ライン整備一式
	木材加工流通施設等整備	大口町	(株)東海木材相互市場	9,150	フォークリフト 2台
	木造公共施設等整備	大口町	大口町	285,821	大口北保育園 1,105㎡[第一期工事]
	木造公共施設等整備	小牧市	(福)元気寿会	84,188	デイサービス・地域支援 624㎡
	木造公共施設等整備	豊橋市	(特非)来夢	40,000	生活介護事業所 158㎡
木造公共施設等整備	大治町	(学)山崎学園	12,530	幼保連携型認定こども園 362㎡(木質内装)	
2016	木造公共施設等整備	大口町	大口町	261,918	大口北保育園 1,043㎡[第二期工事]

資料：県林務課

Ⅲ 木 材 産 業

36 素材需要量の推移

(単位：千m³)

区分 年次	総需要量	国 産 材			外 材				
		総 数	内 訳		総 数	内 訳			
			自県材	他県材		南洋材	米 材	北洋材	その他
2013	145	82	72	10	63	13	38	4	8
2014	122	64	54	10	58	16	31	3	8
2015	126	88	74	14	38	8	25	1	4
2016	124	82	73	9	42	8	25	4	5
2017	118	70	58	12	48	13	30	-	5
2018	124	82	70	12	42	10	27

資料：農林水産省統計部

37 部門別素材需要量の推移

(単位：千m³)

区分 年次	総 数	製 材 用	合 板 用	木材チップ用等
2013	145	125	3	17
2014	122	119	1	2
2015	126	112	-	14
2016	124	106	1	17
2017	118	103	-	15
2018	124	112	-	12

資料：農林水産省統計部

38 木材需給量の推移（全国）

（単位：千m³）

区分 年次	需 要					供 給								
	総 数	製材用	パルプ・ チップ用	合板用	その他	総 数	国産材	輸 入 材						
								総 数	丸 太	製 材	合単板	チップ	パルプ	その他
2013	73,867	28,592	(7,972) 30,353	11,232	3,690	(7,972) 73,867	21,117	52,750	5,970	11,835	6,734	19,400	5,771	3,040
2014	72,543	26,139	(6,913) 31,430	11,144	3,830	(6,913) 72,543	21,489	51,054	5,342	9,876	6,533	20,594	5,788	2,921
2015	70,883	25,358	(6,667) 31,783	9,914	3,829	(6,667) 70,883	21,797	49,086	4,824	9,472	5,463	21,023	5,555	2,749
2016	71,942	26,150	(6,853) 31,619	10,248	3,925	(6,853) 71,942	22,355	49,586	5,019	9,968	5,377	20,955	5,393	2,874
2017	73,611	26,370	(7,107) 32,302	10,538	4,401	(7,107) 73,611	23,181	50,430	4,666	9,978	5,887	21,216	5,663	3,020
2018	73,184	25,708	(6,792) 32,009	11,003	4,465	(6,792) 73,184	23,680	49,505	4,541	9,418	5,548	21,371	5,716	2,912

注1 輸入材のうち、製材、合単板、チップ、パルプ及びその他は、丸太換算材積である。

注2 ()内は、工場残材及び解体材・廃材を利用した木材チップの供給量であり、製材用等に丸太換算して含まれているため、外数とした。

注3 本表には、燃料材及びしいたけ原木は含まれていない。

資料：林野庁「木材需給表」

39 外材輸入量の推移（通関数量）

（単位：千m³）

区分 年次	総 数	南洋材	米 材	北洋材	その他	港 別 内 訳			
						名古屋港	三河港	その他	
2013	丸 太	113	23	82	0	8	84	29	—
	製材品	970	19	384	52	515	961	9	0
	合 板	436	355	1	—	80	398	37	—
2014	丸 太	104	15	85	0	4	76	28	—
	製材品	793	19	299	47	428	786	7	0
	合 板	424	358	1	—	65	382	42	—
2015	丸 太	76	17	53	1	5	65	12	—
	製材品	705	17	314	43	331	697	8	—
	合 板	348	309	0	—	39	326	22	—
2016	丸 太	83	19	59	1	4	73	10	—
	製材品	674	16	286	49	323	668	8	—
	合 板	324	298	—	—	26	306	18	—
2017	丸 太	66	8	53	1	4	66	—	—
	製材品	663	15	277	46	325	656	6	—
	合 板	234	210	—	—	24	216	18	—
2018	丸 太	75	6	64	1	4	73	1	—
	製材品	647	13	262	52	320	639	8	0
	合 板	398	240	0	0	158	383	15	0

注 「三河港」は、蒲郡港+豊橋港で、税関の集計方法の変更による。

「その他」は、衣浦港、中部国際空港を含む。

資料：財務省「貿易統計」

40 住宅建築の推移

〔単位 着工面積：千㎡
1戸当り面積：㎡
木造率：％
その他：戸〕

(着工住宅数)

区分 年次	愛 知 県			全 国		
	着工数	着工面積	1戸当り面積	着工数	着工面積	1戸当り面積
2013	64,478	6,300	98	980,025	87,210	89
2014	55,888	5,204	93	892,261	75,681	85
2015	58,720	5,212	89	909,299	75,060	83
2016	62,377	5,460	88	967,237	78,178	81
2017	63,650	5,467	86	964,569	77,515	80
2018	66,978	5,621	84	942,370	75,309	80

(木造・非木造別着工新設住宅数)

区分 年次	愛 知 県				全 国			
	着工総数	木造数	非木造数	木造率	着工総数	木造数	非木造数	木造率
2013	64,478	37,585	26,893	58	980,025	549,971	430,054	56
2014	55,888	32,477	23,411	58	892,261	489,463	402,798	55
2015	58,720	32,678	26,042	56	909,299	504,318	404,981	55
2016	62,377	37,973	24,404	61	967,237	546,336	420,901	56
2017	63,650	37,501	26,149	59	964,569	545,366	419,203	57
2018	66,978	38,642	28,336	58	942,370	539,394	402,976	57

資料：国土交通省「住宅着工統計」

41 製材工場数並びに製材工場素材入荷量・製材品出荷量の推移

〔単位 工場数：工場
その他：千㎡〕

区分 年次	工場数	製 材 工 場 入 荷 量					製材品出荷量
		総 数	国 産 材			輸 入 材	
			計	針 葉 樹	広 葉 樹		
2013	142	125	67	66	1	58	85
2014	134	119	62	61	1	57	82
2015	126	112	74	73	1	38	73
2016	123	106	65	63	2	41	71
2017	113	103	56	—	—	47	68
2018	112	112	70	67	3	42	69

注 7.5kW未満の工場を除く。

資料：農林水産省統計部

42 木材チップの工場数及び生産量等の推移

〔単位 工場数：工場
生産量：千t〕

区分 年次	チップ工場	
	工場数	木材チップ生産量
2013	27	229
2014	26	146
2015	23	116
2016	26	125
2017	26	105
2018	25	91

資料：農林水産省統計部

43 木材・木材製品企業物価指数（全国平均）

(2015年=100)

区分 年次	総平均	国内企業物価指数				輸入物価指数		
		丸太類	製材	木材チップ	合板	丸太類	製材	木材チップ
2015	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
2016	96.5	97.7	98.3	110.0	106.0	88.1	92.8	86.4
2017	98.7	101.0	100.1	107.6	110.8	94.4	103.0	88.1
2018	101.3	105.6	103.4	108.5	116.5	100.5	113.9	91.9

資料：日本銀行「企業物価指数」「輸入物価指数」

IV 県土の保全

44 治山事業の推移

(単位：ha)

区分	年度	2013年度 面積	2014年度 面積	2015年度 面積	2016年度 面積	2017年度 面積	2018年度 面積
復旧治山		46.5	28.8	44.9	38.7	62.5	39.2
緊急予防治山		—	—	—	0.3	0.5	5.9
予防治山		46.4	28.9	32.9	34.1	27.1	39.7
地域防災対策総合治山		24.3	65.8	9.5	28.4	13.0	4.7
水源地域整備		121.1	72.1	83.8	127.6	61.6	78.8
保安林管理道整備		—	—	—	—	—	—
海岸防災林造成		1.2	0.8	0.6	0.7	1.7	0.6
保安林改良		118.4	36.2	32.2	30.6	30.9	31.0
保安林緊急改良		8.0	3.4	3.7	162.6	161.0	161.8
保育		176.0	122.8	98.1	98.7	140.8	106.2
生活環境保全林整備		—	—	—	—	—	—
環境防災林整備		15.0	11.4	36.9	31.9	—	—
自然環境保全治山		—	—	—	—	—	—
国有林野内補助治山		—	—	—	—	—	—
地すべり防止		—	—	—	—	—	—
小計		556.9	370.2	342.6	553.6	499.1	467.8
災害関連緊急治山		2.2	—	—	—	—	4.2
小計		2.2	—	—	—	—	4.2
国庫補助事業計		559.1	370.2	342.6	553.6	499.1	472.0
小規模治山		166.5	168.4	312.7	126.9	142.1	136.8
緊急小規模治山対策		15.7	18.4	16.2	19.9	14.3	22.5
単独県費事業計		182.2	186.8	328.9	146.8	156.4	159.4

資料：県森林保全課

45 治山事業計画と進捗

区 分		計 画	実 績	計 画 残	達 成 率
公共治山	尾張西三河森林計画区	174 地区	127 地区	47 地区	73.0%
	東三河森林計画区	205 地区	184 地区	21 地区	89.8%
単県治山	小規模治山	405 箇所	257 箇所	148 箇所	63.5%
	緊急小規模治山対策	83 箇所	91 箇所	0 箇所	109.6%

注1 2019年3月現在

注2 公共治山は、尾張西三河森林計画区(2016年度～2025年度)及び東三河森林計画区(2013年度～2022年度)

注3 小規模治山は、第十二次五箇年計画(2016年度～2020年度)

注4 緊急小規模治山対策は、第十四次計画(2015年度～2018年度)

46 保安林種別面積の推移

(単位：ha)

区分 年度	総 数		水 源 かん養		土砂流 出防備		土砂崩 壊防備		飛 砂 防 備		防 風		潮 害 防 備		干 害 防 備		魚つき		保 健		風 致	
	指 定	解 除	指 定	解 除	指 定	解 除	指 定	解 除	指 定	解 除	指 定	解 除	指 定	解 除	指 定	解 除	指 定	解 除	指 定	解 除	指 定	解 除
2013	(4,163)	68,138	26,196		(369)	40,088	(1)	119	210		92	(3)	189	(38)	226	1		(3,752)	975		42	
2014	(4,163)	68,289	26,198		(369)	40,236	(1)	120	210		92	(3)	189	(38)	226	1		(3,752)	975		42	
2015	(4,163)	68,984	26,524		(369)	40,606	(1)	120	210		92	(3)	189	(38)	226	1		(3,752)	975		42	
2016	(4,163)	69,185	26,558		(369)	40,772	(1)	120	210		92	(3)	189	(38)	226	1		(3,752)	975		42	
2017	(4,453)	69,108	26,629		(369)	40,869	(1)	120	210		92	(3)	190	(38)	226	1		(4,042)	729		42	
2018	(4,453)	69,369	26,697		(369)	41,062	(1)	120	210		92	(3)	190	(38)	226	1		(4,042)	729		42	

注1 ()内数値は、兼種面積で外数であり、面積は、上位の保安林面積に含まれる。

注2 小数点未満を四捨五入した。従って内訳と計は必ずしも一致しない。

注3 2017年度の保安林面積の減少は、兼種指定した保安林面積の精査による。

資料：県森林保全課

47 保安林指定解除面積の推移

(単位：ha)

区分 年度	総 数		水 源 かん養		土砂流 出防備		土砂崩 壊防備		飛 砂 防 備		防 風		潮 害 防 備		干 害 防 備		魚つき		保 健		風 致		
	指 定	解 除	指 定	解 除	指 定	解 除	指 定	解 除	指 定	解 除	指 定	解 除	指 定	解 除	指 定	解 除	指 定	解 除	指 定	解 除	指 定	解 除	
2013	70	1	40	0	26	1	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4	0	—	—
2014	154	3	2	—	152	3	0	0	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2015	732	36	326	0	406	36	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	—	—	—
2016	226	26	34	0	192	26	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	—	—	—
2017	203	34	71	—	131	34	—	—	—	—	—	1	0	—	—	—	—	—	—	0	—	—	—
2018	269	8	69	—	200	8	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	—	0	—	—	—

注1 保安林種の変更等を含む。

注2 兼種保安林の指定解除面積を除く。

注3 小数点未満を四捨五入した。従って内訳と計は必ずしも一致しない。

資料：県森林保全課

48 転用目的別保安林解除の推移

〔単位 件数：件
面積：ha〕

区分 年度	総 数		農地・牧野 等 造 成		観 光 施 設 等 建 設		住 宅 ・ 工 場 等 造 成		道 路 ・ 学 校 等 の 公 共 施 設		そ の 他	
	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積
2013	8	1	—	—	—	—	—	—	1	0	7	1
2014	13	3	—	—	—	—	—	—	5	1	8	3
2015	35	36	—	—	—	—	2	6	19	27	14	3
2016	18	26	—	—	—	—	—	—	10	25	8	1
2017	12	34	—	—	—	—	3	9	8	25	1	0
2018	26	8	—	—	—	—	—	—	19	6	7	1
13～18計	112	108	—	—	—	—	5	15	62	84	45	9
1件当り 平均面積	0.96		—		—		3.00		1.35		0.20	

注 兼種保安林の解除面積を除く。

資料：県森林保全課

49 林地開発許可の推移

〔単位 件数：件
面積：ha〕

区分 年度	総 数		工場・事業 場 用 地 の 造 成		住宅用地 の 造 成		ゴルフ場 の 設 置		レジャー 施 設 の 置		農 用 地 の 造 成		土 石 の 採 掘		道 路 の 新 設 又 は 改 築		そ の 他	
	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積
2013	5	10	2	6	1	1	—	—	—	—	—	—	2	3	—	—	—	—
2014	3	18	1	2	2	16	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2015	6	28	2	4	1	7	—	—	—	—	—	—	3	17	—	—	—	—
2016	5	8	3	6	1	1	—	—	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—
2017	7	80	3	70	1	2	—	—	—	—	—	—	2	6	—	—	1	2
2018	4	16	2	5	—	—	—	—	—	—	—	—	1	8	—	—	1	3
13～18計	30	160	13	93	6	27	—	—	—	—	—	—	9	35	—	—	2	5
1件当り 平均面積	5.33		7.15		4.50		—		—		—		3.89		—		2.50	

資料：県森林保全課

50 林地開発連絡調整の推移

〔単位 件数：件
面積：ha〕

区分 年度	総数		工場・事業場用地の造成		学校・博物館用地の造成		住宅用地の造成		公園・運動場等の造成		農用地の造成		道路の新設又は改築		ダムの設置		その他	
	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積
2013	5	62	2	55	—	—	1	4	—	—	—	—	1	2	—	—	1	1
2014	2	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	7
2015	1	4	1	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2016	5	13	—	—	—	—	1	5	1	3	—	—	3	5	—	—	—	—
2017	3	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	7	—	—	—	—
2018	6	12	2	4	—	—	1	1	1	1	—	—	1	3	—	—	1	3
13～18計	22	105	5	63	—	—	3	10	2	4	—	—	8	17	—	—	4	11
1件当たり平均面積	4.77		12.60		—		3.33		2.00		—		2.13		—		2.75	

資料：県森林保全課

51 森林保全推進員による森林巡視の推移

〔単位 森林保全推進員数：人
発見指導件数：件〕

区分 年度	森林保全推進員数	発見指導件数	巡視対象市町村数
2013	107	27	34
2014	105	61	34
2015	103	60	34
2016	99	39	34
2017	98	17	34
2018	99	28	34

資料：県森林保全課

52 森林の主要病虫獣の被害及び駆除の推移

単位 松くい虫、
カシノガキイムシ：m³
その他：ha

区分 年度	松くい虫		カシノガキイムシ	しか	かもしか	のうさぎ
	被害量	駆除量				
2013	4,138	759	2,730	31	2	1
2014	2,744	604	959	12	0	-
2015	1,568	671	3,262	11	2	-
2016	1,170	387	1,242	11	0	-
2017	922	265	654	9	0	-
2018	759	104	362	4	-	0

注(1) 松くい虫、カシノガキイムシ以外は、被害量で実損面積。

(2) 松くい虫の駆除実績は、森林病虫害等防除事業、造林事業、加速化事業による実績。

資料：県森林保全課

53 森林災害予防啓発普及事業の実績

区分		森林災害予防機器		広報宣伝機器		広報宣伝資材
		水のう付 手動ポンプ (台)	携帯用 防火セット (セット)	標板 (丸型・角型) (枚)	山火事防止用旗 (枚)	
年度	実施地域					
2013	新城設楽農林水産 事務所管内 (林業振興課)	5	5	3	3	携帯用灰皿
2014	豊田加茂農林水産 事務所管内	-	-	5	20	-
2015	西三河農林水産 事務所管内		6	20	10	林野火災防止普及啓発用マ グネットシート 携帯用灰皿
2016	東三河農林水産 事務所管内			-	-	ポケットティッシュ マイクロファイバー タオル
2017	新城設楽農林水産 事務所管内 (新城林務課) 県内一円			-	20	ポケットティッシュ ふせん、ボールペン 携帯用灰皿、タオル
2018	県内一円			-	-	車両用マグネットシート ウェットティッシュ ふせん

資料：県森林保全課

54 林野火災発生原因別面積の推移

〔単位 件数：件
面積：ha〕

区分 年次	総 数		た き 火		た ば こ		火 遊 び		火 入		その他人為火		不 明 火	
	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積
2013	69	5.27	26	2.46	3	0.11	6	0.01	11	1.40	20	0.98	3	0.31
2014	40	1.33	9	1.01	7	0.06	2	0.00	4	0.05	12	0.16	6	0.05
2015	22	1.04	4	0.14	3	0.47	3	0.00	2	0.11	6	0.12	4	0.20
2016	24	1.10	11	0.87	2	0.00	3	0.15	-	-	8	0.08	-	-
2017	29	5.13	9	0.41	2	0.00	1	0.09	1	0.01	15	4.55	1	0.07
2018	34	2.29	14	0.40	3	1.02	1	0.01	-	-	13	0.53	3	0.33

資料：県森林保全課「森林被害報告年報調査」

55 森林国営保険損害てん補面積及び金額の推移

〔単位 面積：ha
金額：千円〕

区分 年度	面 積	金 額
2013	—	—
2014	0.04	15
2015	—	—
2016	—	—
2017	0.67	101
2018	0.23	35

資料：県森林保全課

※2014年度までは森林国営保険、2015年度以降は森林保険

V 自然とみどり

56 緑化思想高揚に関する児童・生徒作品応募点数の推移

(単位：点)

区分 年度	総 数	ポ ス タ ー	標 語
2013	23,457	12,837	10,620
2014	25,528	12,763	12,765
2015	28,030	13,296	14,734
2016	28,734	12,496	16,238
2017	28,609	12,439	16,170
2018	24,478	11,603	12,875

資料：(公社)国土緑化推進機構

57 緑の募金の推移

(単位 割合：%
金額：千円)

区分 年度	募 金 額	内 訳									
		家 庭 募 金		学 校 募 金		職 場 募 金		企 業 募 金		そ の 他	
		割合	金 額	割合	金 額	割合	金 額	割合	金 額	割合	金 額
2013	88,120	46	40,714	18	15,513	10	8,782	21	18,933	5	4,178
2014	81,938	48	39,540	20	16,288	10	7,825	17	14,374	5	3,911
2015	83,849	47	39,207	19	16,364	8	7,129	20	16,524	6	4,624
2016	84,507	46	38,816	21	17,606	9	7,911	20	16,549	4	3,625
2017	87,828	44	38,596	20	17,263	9	8,079	22	19,381	5	4,508
2018	84,054	46	38,577	20	16,774	9	7,807	19	16,379	6	4,517

注 単位未満は四捨五入した。従って内訳と計は必ずしも一致しない。

資料：(公社)愛知県緑化推進委員会

58 学校関係緑化コンクール参加校の推移

(単位：校)

区分 年度	総数	小学校	中学校	高等学校 特別支援学校
2013	14	11	1	2
2014	13	11	1	1
2015	10	9	1	-
2016	14	12	1	1
2017	13	11	1	1
2018	15	11	3	1

資料：県森林保全課

59 緑化推進事業実施状況の推移

(単位 面積：ha
本数：本)

区分 年度	事業実施 緑化推進地区数	事業実施 箇所数	事業実施 市町村数	植栽面積	植栽本数
2013	11	3	7	0.09	2,181
2014	7	7	6	0.03	475
2015	3	-	2	-	-
2016	2	3	2	0.02	715
2017	1	1	1	0.01	950
2018	1	1	1	0.01	1,200

注 事業実施箇所数は、保存樹木等維持管理事業を除く。

資料：県森林保全課

60 緑化センター・昭和の森利用状況の推移

(単位 件数：件
その他：人)

区分 年度	緑化センター利用者		昭和の森利用者		
	利用者総数	緑化相談件数	利用者総数	交流館等	バーベキュー場
2013	575,500	2,024	264,400	23,300	10,702
2014	655,900	2,002	285,000	24,705	11,219
2015	633,700	2,295	291,900	23,753	12,552
2016	706,900	2,321	316,400	22,379	11,575
2017	725,900	2,315	302,400	21,265	10,915
2018	661,000	2,273	296,000	18,149	10,518

資料：県森林保全課

61 緑化センター研修実施状況の推移

〔単位 日数：日
延人員：人〕

区分 年度	総 数		緑 化 研 修		みどりの教室		みどりの学習教室		野 外 教 室	
	日数	延人員	日数	延人員	日数	延人員	日数	延人員	日数	延人員
2013	68	2,982	41	1,677	12	343	5	512	10	450
2014	69	3,224	42	1,896	12	343	5	532	10	453
2015	80	3,395	54	2,095	12	369	4	468	10	463
2016	70	3,602	44	2,208	12	358	4	537	10	499
2017	74	3,426	48	2,100	12	327	4	516	10	483
2018	77	3,070	49	2,056	14	374	4	227	10	413

資料：県森林保全課

62 植木センター利用状況の推移

〔単位 件数：件
その他：人〕

区分 年度	利用者総数	相談者数	相談件数
2013	25,900	226	282
2014	27,000	239	298
2015	33,000	223	320
2016	34,000	180	246
2017	38,000	175	248
2018	37,000	165	233

資料：県森林保全課

63 植木センター研修実施状況の推移

〔単位 日数：日
受講者：人〕

区分 年度	総 数		基 礎		実 務		資 格 取 得		一 般	
	日数	受講者	日数	受講者	日数	受講者	日数	受講者	日数	受講者
2013	68	2,064	13	500	32	867	11	223	12	474
2014	73	1,993	13	425	34	804	11	226	15	538
2015	75	1,922	13	394	36	805	11	193	15	530
2016	74	2,072	13	497	32	825	14	243	15	507
2017	74	1,978	13	455	32	769	14	246	15	508
2018	73	1,961	13	452	32	749	14	243	14	517

資料：県森林保全課

64 あいち海上の森センター利用状況の推移

(単位：人)

区分 年度	本館 利用者数	体験学習プログラム参加者数				
		総数	里と森の教室	調査学習会	海上の森 ツアー	森の楽校
2013	18,782	768	419	91	-	258
2014	19,132	647	364	98	-	185
2015	14,866	781	414	115	72	180
2016	18,016	565	334	84	-	147
2017	17,684	574	385	66	-	123
2018	19,014	490	352	30	-	108

資料：県森林保全課

65 緑化木生産の推移

(単位 面積：ha
その他：百万本)

区分 年度	総数			苗木			成木		
	生産面積	生産数量	出荷本数	生産面積	生産数量	出荷本数	生産面積	生産数量	出荷本数
2013	483	24	9	61	12	2	421	12	7
2014	469	22	9	62	12	2	407	10	6
2015	413	22	9	57	11	3	356	10	6
2016	376	20	7	68	11	2	308	9	5
2017	369	20	7	65	10	2	304	9	5
2018	331	17	7	60	9	2	271	8	5

注 単位未満は四捨五入した。従って内訳と総数は必ずしも一致しない。

資料：県森林保全課

66 緑化樹木共進会の推移

(単位：点)

年度	回数	出品点数						
		総数	ほ場	一般植木 (自然形)	一般植木 (仕立形)	生垣用 樹木	玉物・株物	コンテナ
2013	第41回	119	6	19	35	18	6	35
2014	第42回	149	6	27	48	22	8	38
2015	第43回	146	9	18	40	23	8	48
2016	第44回	133	9	15	36	18	7	48
2017	第45回	135	5	34	26	16	8	46
2018	第46回	121	13	21	29	8	2	48

資料：県森林保全課

67 県有林主要生産物の推移

A 一林産物

(単位：m³)

年度	総数			スギ			ヒノキ			マツ			広葉樹		
	素材	立木	計	素材	立木	計	素材	立木	計	素材	立木	計	素材	立木	計
2013	2,189	176	2,366	1,091	123	1,214	1,097	48	1,146	1	5	6	0	0	0
2014	2,023	0	2,023	761	0	761	1,239	0	1,239	19	0	19	4	0	4
2015	1,508	206	1,714	734	13	747	762	187	949	5	6	11	7	0	7
2016	1,743	334	2,076	897	119	1,016	833	215	1,047	0	0	0	13	0	13
2017	1,240	459	1,699	663	95	758	558	365	922	18	0	18	1	0	1
2018	1,532	0	1,532	882	0	882	650	0	650	0	0	0	0	0	0

B 粘土類

(単位：千t)

年度	総数			直営			租鉦		
	粘土類	珪砂類	計	粘土類	珪砂類	計	粘土類	珪砂類	計
2013	107	272	379	80	16	95	28	256	284
2014	98	262	360	73	15	87	25	247	272
2015	81	214	295	69	17	87	12	197	209
2016	91	245	336	60	16	76	31	229	260
2017	89	312	400	48	14	62	41	298	338
2018	127	207	334	42	19	61	85	188	273

注 単位未満は四捨五入した。従って内訳と総数は必ずしも一致しない。

資料：県林務課

68 森林公園利用状況の推移

〔単位 総数：千人
その他：人〕

区分 年度	総 数	運 動 施 設						植 物 園	ゴ ル フ 施 設			一 般 公 園			
		野 球 場	庭 球 場	弓 道 場	乗 馬	運 動 広 場	計	植 物 園	コ ー ス	練 習 場	計	ボ ー ト	野 外 演 舞 場	セ ン タ ー 広 場	計
2013	1,304	16,370	23,309	1,171	12,307	16,348	69,505	91,383	112,102	107,169	219,271	4,631	11,518	908,000	924,149
2014	1,335	15,690	21,874	1,323	11,784	16,613	67,284	102,067	113,351	110,847	224,198	4,934	9,958	927,000	941,892
2015	1,311	15,276	22,742	1,163	11,791	23,966	74,938	91,588	112,833	111,136	223,969	5,217	8,096	907,000	920,313
2016	1,338	17,837	22,218	1,473	12,869	21,014	75,411	88,256	114,230	116,576	230,806	4,370	8,541	931,000	943,911
2017	1,262	14,813	21,853	1,668	11,070	22,501	71,905	79,341	115,225	132,580	247,805	3,469	8,529	851,000	862,998
2018	1,252	16,977	25,149	2,164	11,305	19,720	75,315	72,003	116,838	134,003	250,841	3,323	5,983	844,400	853,706

資料：県林務課

69 県民の森利用状況の推移

〔単位 総数：千人
その他：人〕

区分 年度	総 数	宿 泊	キャン プ 場 利 用	日 帰 り 客 等
2013	497	8,949	25,581	462,000
2014	493	7,627	24,289	461,000
2015	508	8,002	25,827	474,000
2016	516	8,955	23,493	484,000
2017	495	9,010	21,848	464,000
2018	465	9,269	20,994	435,000

資料：県林務課

70 「市町村の木」・「市町村の花」選定状況

市町村名	市町村の木	市町村の花	市町村名	市町村の木	市町村の花
名古屋市	くすのき	ゆり	常滑市	くろまつ	さざんか
一宮市	はなみずき	ききょう	東海市	くすのき	さつき
瀬戸市	くろがねもち	つばき	大府市	くろがねもち	くちなし
春日井市	けやき	さくら	知多市	やまもも	つつじ
犬山市	かなめもち	さくら	阿久比町	もちのき	うめ
江南市	くろがねもち	ふじ	東浦町	くすのき	うのはな
小牧市	たぶのき	つつじ	南知多町	うばめがし	すいせん
稲沢市	くろまつ	きく	美浜町	くろまつ	つつじ
尾張旭市	くすのき	ひまわり	武豊町	くすのき	さざんか
岩倉市	くすのき	つつじ	岡崎市	みわくろまつ	ふじ
豊明市	けやき	ひまわり	碧南市	かし	はなしょうぶ
日進市	きんもくせい	あじさい	刈谷市	くすのき	かきつばた
清須市	はなみずき	さくらチュリップ	安城市	くろまつ	サルビア
北名古屋市	もくせい	つつじ	西尾市	くすのき	ばら
東郷町	もっこく	あやめ	知立市	けやき	かきつばた
長久手市	かえで	さつき	高浜市	くすのき	きく
豊山町	しいのき	さざんか	幸田町	やまざくら	つばき
大口町	もくせい	さくら	豊田市	けやき	ひまわり
扶桑町	かし	ひまわり	みよし市	みわくろまつ	さつき
津島市	くろまつ	ふじ	新城市	やまざくら	ささゆり
愛西市	まき	はす	設楽町	ぶな	しゃくなげ
弥富市	さくら	きんぎょそう	東栄町	すぎ	やまゆり
あま市	はなみずき	ゆり	豊根村	とち	すいせん
大治町	せんだん	さつき	豊橋市	くすのき	つつじ
蟹江町	きんもくせい	はなしょうぶ	豊川市	くろまつ	さつき
飛島村	さくら	きく	蒲郡市	くすのき	つつじ
半田市	くろまつ	さつき	田原市	くすのき	なのはな

注 2020年3月現在

資料：県森林保全課

VI あいち森と緑づくり

71 あいち森と緑づくり事業（農林基盤局）の推移

区分 年度	人工林整備			里山林整備				木の香る 学校づくり		愛知 県産 木材 利活用 推進
	奥地 (ha)	公道・河 川沿い等 (ha)	計 (ha)	里山林 再生 整備 (箇所)	提案型 里山林 整備 (箇所)	里山林 健全化 整備 (箇所)	計 (箇所)	机・椅子	その他	
2009	342	410	753	2	5	2	9	1,290セット	—	—
2010	645	877	1,522	4	6(3)	5	15(3)	1,045セット +机125台	—	—
2011	557	954	1,511	9(1)	3(1)	4	16(2)	9,768セット +机1,589台 +椅子70台	—	—
2012	860	747	1,607	6(3)	1(2)	14	19(7)	9,196セット +机1,595台 +椅子271台	—	—
2013	1,286	527	1,813	9(4)	8	9(6)	26(10)	15,853セット +机542台 +椅子299台 +天板1,280台	745台 368㎡	—
2014	767	481	1,248	12(9)	2(7)	9(9)	23(25)	11,805セット +机402台 +椅子50台	124台	14件
2015	1,049	458	1,508	3(14)	5(2)	11(8)	19(24)	11,243セット +机206台 +椅子58台 +天板40台	282台	15件
2016	1,333	329	1,662	8(12)	4(3)	12(8)	24(23)	10,557セット +机55台 +椅子64台 +天板44台	319台	16件
2017	1,338	256	1,593	8(11)	1(2)	14(4)	23(17)	10,294セット +机1,759台 +椅子2台 +天板217台	368台	17件
2018	1,421	238	1,659	14(13)	3(1)	9(1)	26(15)	3,743セット +机1,831台 +椅子15台 +天板25台	573台	14件

注1 人工林整備の面積はha未満を四捨五入した。従って、内訳と計は必ずしも一致しない。

注2 里山林整備の()は前年度からの継続事業の重複箇所で、外数としている。

なお、2017年度に行った事業評価において、2009年度から2016年度までの箇所数の精査を行い、その結果を反映している。

注3 木の香る学校づくりのその他の「台」は、下駄箱、ロッカー、教卓、教壇及び遊具を、「㎡」は腰壁及び床板を計上している。

注4 木の香る学校づくりの「その他」下駄箱、ロッカー等の導入助成は2013年度から、愛知県産木材利活用推進は2014年度からの拡充事業。

VII 2019年度主な林政年譜

年 月 日	内 容	備 考
2019年		
4.15	愛知県木材市場連盟総会	名古屋市（サイプレスガーデンホテル）
5.3～5	みどりフェスティバル'19春	豊田市（県緑化センター）
5.10	愛知県林業種苗協同組合総会	名古屋市（アイリス愛知）
5.22	一般社団法人愛知県木材組合連合会総会	名古屋市（木材会館）
6.1	第70回全国植樹祭レセプション 第48回全国林業後継者大会あいち2019	名古屋市（名古屋観光ホテル） 豊田市（豊田参合館）
6.2	第70回全国植樹祭	尾張旭市・名古屋市（愛知県森林公園）
6.7	公益社団法人愛知県緑化推進委員会定時総会	名古屋市（KKRホテル名古屋）
6.22	日本木材青壮年団体連合会第64回全国会員愛知大会	名古屋市（ホテルナゴヤキャッスル）
6.28	愛知県森林組合連合会総会	名古屋市（KKRホテル名古屋）
7.2	愛知県緑化木生産者団体協議会総会	名古屋市（アイリス愛知）
7.4	愛知県森林審議会	名古屋市（県本庁舎正庁）
7.24	愛知県森林協会総会	名古屋市（アイリス愛知）
8.2	林道研究発表会	名古屋市（アイリス愛知）
8.2、3	森林・林業技術センター試験研究成果発表会 及び公開デー	新城市（森林・林業技術センター）
8.23	第55回関東・中部地区治山林道研究発表会	名古屋市（ウインクあいち）
9.3	治山研究発表会	名古屋市（アイリス愛知）
10.21、11.8	第47回愛知県緑化樹木共進会	稲沢市（県植木センター）
11.7	第35回三河材まつり	新城市（三河材流通加工センター） 長久手市（愛・地球博記念公園）
11.16	あいち森と緑づくり体感ツアー	みよし市（黒笹工業団地緑地） 名古屋市（大高緑地） 北設楽郡設楽町（きららの里）
11.22	令和元年度全国優良木材展示会	丹羽郡大口町（東海木材相互市場大口市場）
11.23～24	みどりフェスティバル'19秋	豊田市（県緑化センター）
12.24	愛知県森林審議会	名古屋市（県本庁舎正庁）

動向調査資料 No.176 林業の動き

2020年5月発行

農林基盤局林務部林務課

〒460-8501

名古屋市中区三の丸三丁目1-2

電話 (052) 961-2111(代表)内線 3746・3752
(052) 954-6446(ダイヤルイン)

FAX (052) 954-6936

E-mail rinmu@pref.aichi.lg.jp

Homepage <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/rinmu/>



この冊子は間伐材印刷用紙を使用しています



 愛知県